

画面で見るマニュアル

超解像技術搭載27型ワイド液晶ディスプレイ
LCD-RDT271Xシリーズ



設置する

設定する

付録

困ったときは

設置する..... 3

スタンドを取り付ける	4
パソコンとつなぐ	5
映像機器とつなぐ	8
モバイル機器とつなぐ	9
電源を入／切する	10
角度を調整する	11
ヘッドホンをつなぐ	12

設定する..... 13

設定メニューを開く	14
映像のズレ(フレーム遅延)を低減する	15
音量を調節する	16
表示する機器を切り換える(入力切換)	17
子画面を表示する	18
表示内容に合わせて、設定を切り換える	22
明るさを調節する	25
ブルーリダクションの設定をする	26
映像を調整する(アナログ)	29
メニューをロックする	33
省電力の設定をする(本製品)	35
省電力の設定をする(Windows)	37

付録..... 39

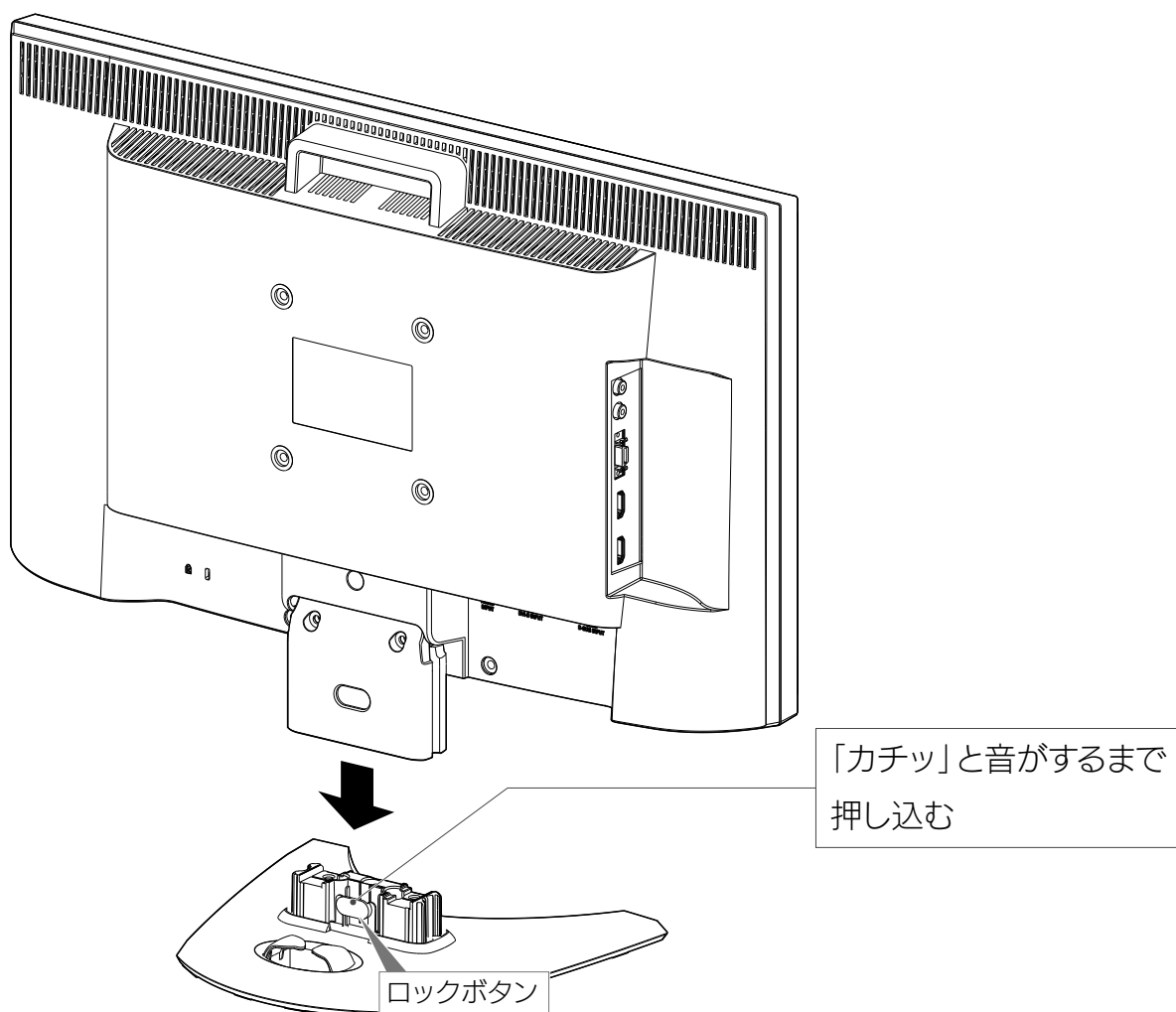
各部の名称	40
設定メニュー	43
映像調整用ソフトウェア(アナログ)	55
スタンドを取り外す	56
VESA アームを取り付ける	57
用語解説	59
ハードウェア仕様	61

困ったときには..... 63

設置する

スタンドを取り付ける	4
パソコンとつなぐ	5
映像機器とつなぐ	8
モバイル機器とつなぐ	9
電源を入／切する	10
角度を調整する	11
ヘッドホンをつなぐ	12

スタンドを取り付ける



スタンド取り付け時のご注意

液晶パネルが故障または破損する恐れがあります。

- 本製品を床などに落とさない
- パネルを傷つけない
- ディスプレイ部(表示面)を手で強く押さえない

スタンドを取り外す方法

[【スタンドを取り外す】\(56ページ\)](#) をご覧ください。

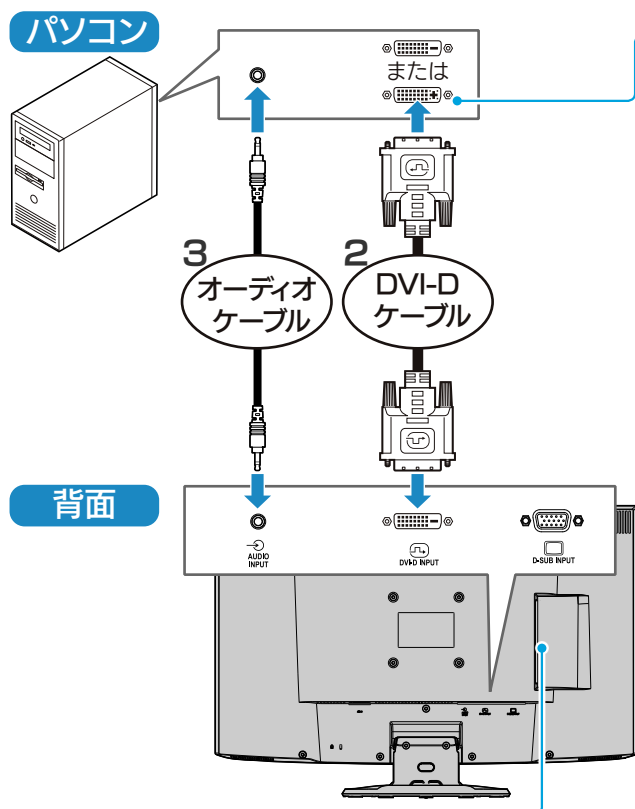
パソコンとつなぐ

つなぐ

1 本製品とパソコンの電源がオフになっていることを確認する

2 本製品とパソコンを、映像用のケーブルでつなぐ
※コネクタがゆるまないよう、ネジをしっかりと締めてください。

3 本製品とパソコンを、添付のオーディオケーブルでつなぐ



パソコンにDVI端子がない

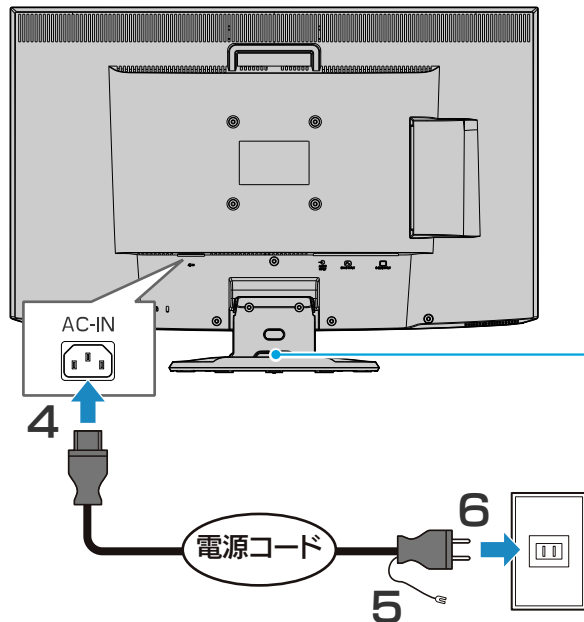
- DVI-Dケーブルの代わりに、添付のアナログRGBケーブルでつなぎます。
- パソコンにHDMI端子がある場合は、**別途用意**したHDMIケーブルで本製品とつなぎます。
(オーディオケーブルは不要です。)

パソコンとHDMIでつなぐ

- HDMIとパソコンを、**別途用意**したHDMIケーブルでつなぎます。
- HDMIで音声を入力できる場合は、オーディオケーブルをつなぐ必要はありません。

- 4 電源コードを本製品につなぐ
- 5 アースをつなぐ
- 6 電源プラグをコンセントにつなぐ

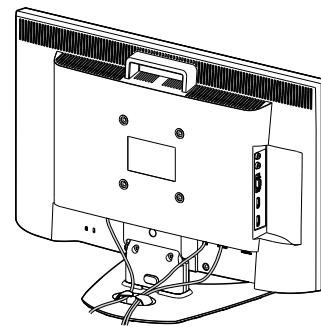
背面



ケーブルをまとめる

スタンドにケーブルホルダーがあります。本製品につないだケーブルをまとめてください。

※ケーブルをまとめる際は、画面の角度を一番上に向けてください。角度調整の際に引っかからなくなります。



ご注意：アースについては以下を守る

- 必ずアースをつなぐ
アースがつながれていない状態で万一故障した場合、感電の恐れがあります。
- 電源プラグをコンセントにつなぐ前に、アースをつなぐ
- アースを外す前に、必ず電源プラグを抜く
- アースをコンセントに挿入、接触させない
火災・感電の原因になります。

設置する

設定する

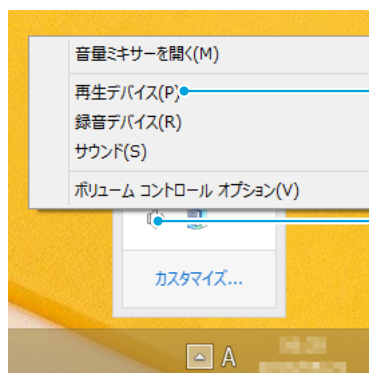
付録

困ったときには

パソコン側の設定（HDMI でつないだ時）

HDMI ケーブルでパソコンとつないだ場合、パソコンによっては、音声の出力先を設定する必要があります。

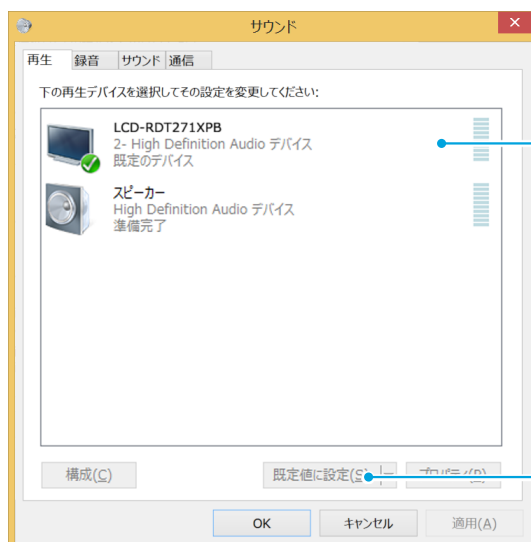
1



① 通知領域のスピーカーアイコンを右クリック

② [再生デバイス] をクリック

2



① [LCD-RDT271XPB] を選ぶ

② [規定値に設定] をクリック

Windows の設定

Windows で設定できる内容があります。

●【省電力の設定をする (Windows)】 (37 ページ)

設置する

設定する

付録

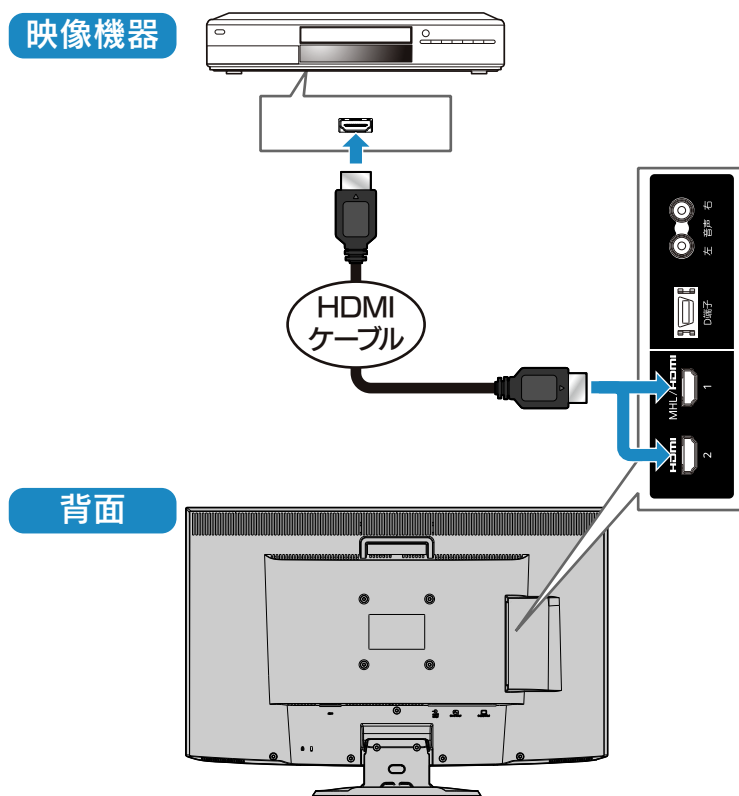
困ったときは

映像機器とつなぐ

この手順は、パソコンとつないだ後につなぐものとして案内されています

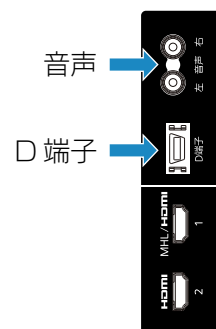
- アースやコンセントとの接続については、【パソコンとつなぐ】(5ページ)をご覧ください。

- 本製品と映像機器を、**別途用意した**HDMIケーブルでつなぐ



D端子に映像機器をつなぐ

- 本製品にはD端子があります。
HDMI端子がない映像機器をつなぐ場合は、**別途用意**したD端子ケーブルをD端子につないでください。
映像機器にコンポーネント映像出力端子がある場合は、コンポーネント映像出力⇄D端子のケーブルを**別途用意**し、D端子につないでください。
- 音声出力も**別途用意**したオーディオケーブル(赤と白の端子があるもの)で本製品とつないでください。



設置する

設定する

付録

困ったときには

モバイル機器とつなぐ

この手順は、パソコンとつないだ後につなぐものとして案内されています

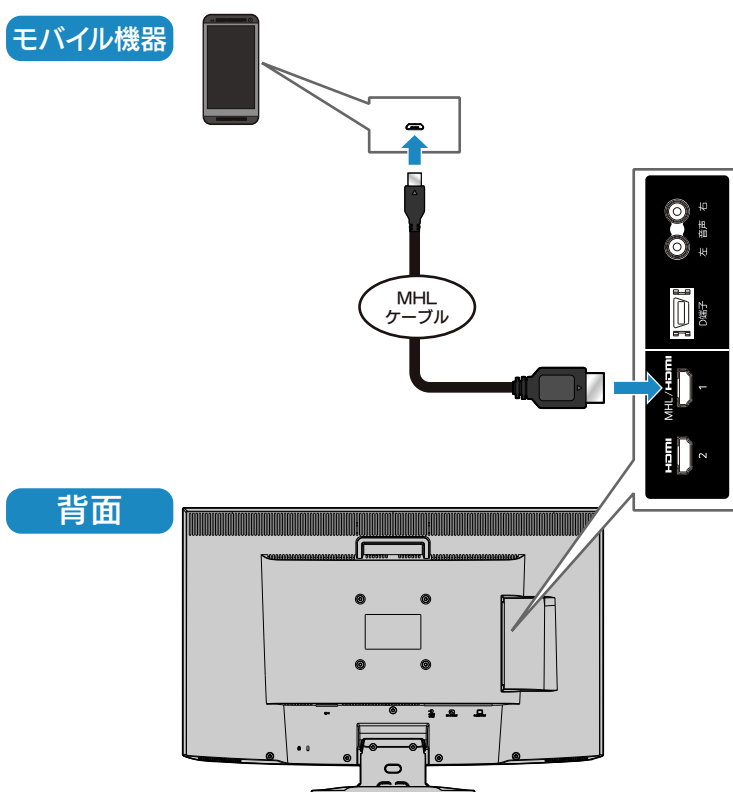
- アースやコンセントとの接続については、【パソコンとつなぐ】(5ページ)をご覧ください。

モバイル機器(スマートフォン、タブレットなど)がMHLに対応している必要があります

- お使いのモバイル機器がMHLに対応しているかについては、モバイル機器のメーカーにお問い合わせください。

つなぐ

- 本製品とモバイル機器を、**別途用意**したMHL対応機器用のMHLケーブルでつなぐ



HDMI2 にはつなげられません

- MHLに対応しているのは、MHL/HDMI1 のみです。

設置する

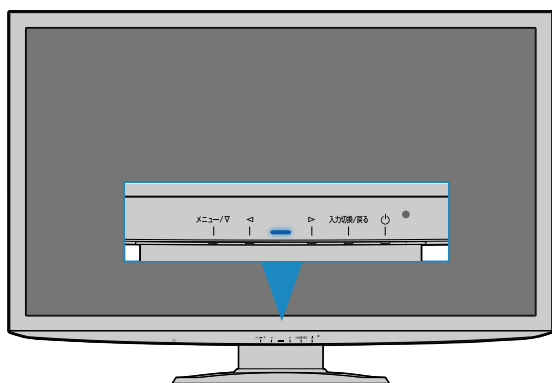
設置する

付録

困ったときは

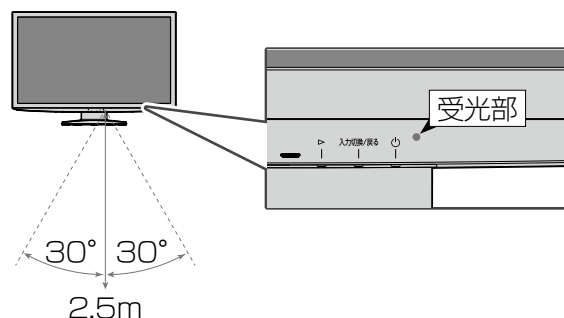
電源を入／切する

リモコンの電源ボタンを押します。



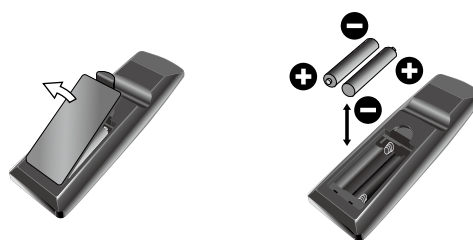
リモコンの操作について

- 受光部に向けて、距離：3m以内、
角度：左右30度以内で操作してください。



リモコンに電池を入れる

- リモコンの裏ボタンを開け、単4形乾電池を入れてください。
- ※ 添付の電池は動作確認用です。
早めに新しい乾電池に交換してください。



画面に何も表示されない

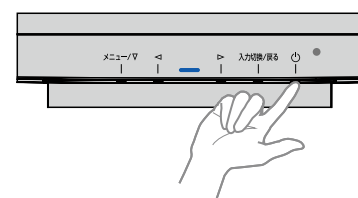
リモコンの入力切替用ボタンを押して、機器をつないだ入力に切り換えてみてください。

【表示する機器を切り換える(入力切替)】(17ページ) 参照



ディスプレイのボタンで電源を入／切する

⏻を押します。



設置する

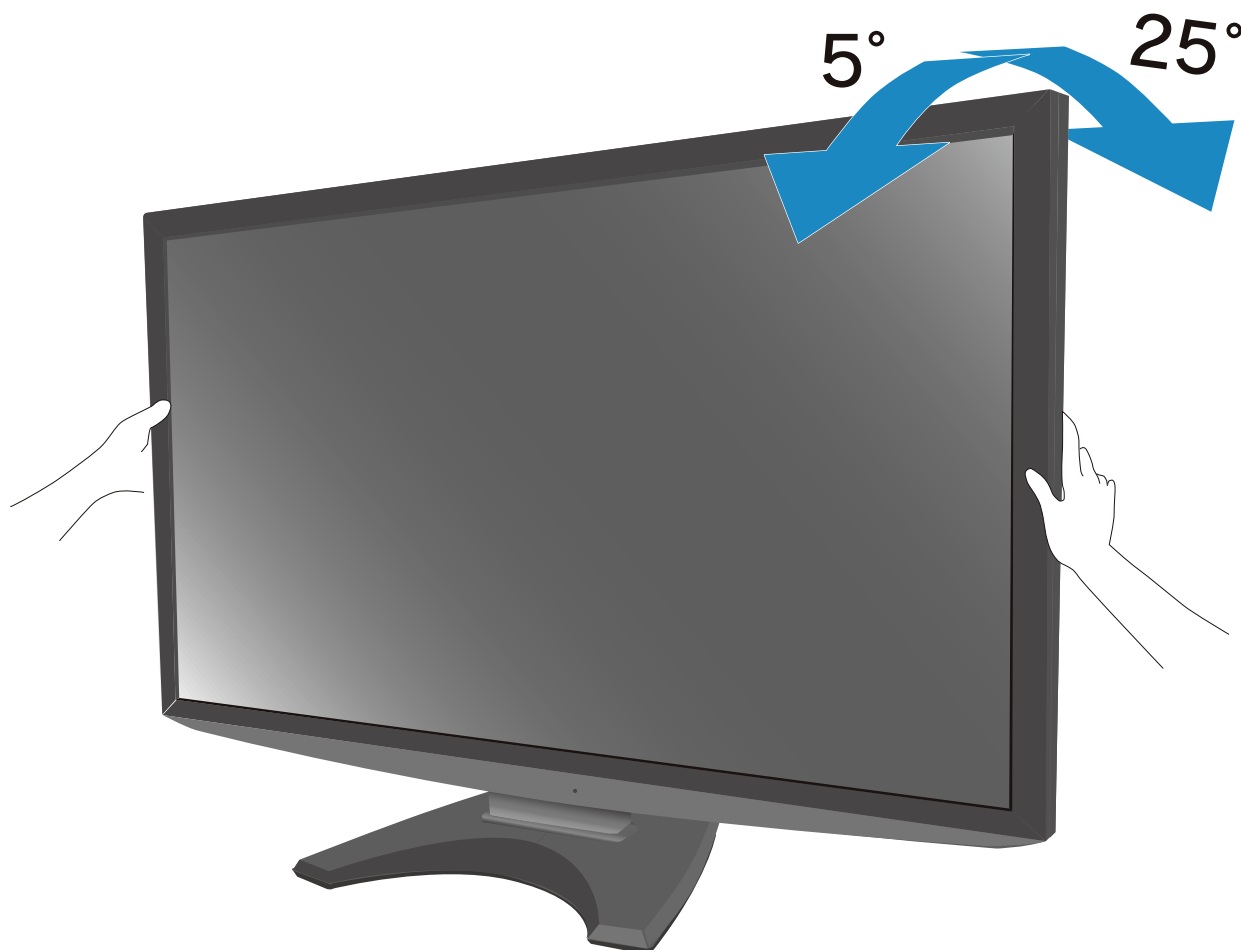
設定する

付録

困ったときには

角度を調整する

本製品のディスプレイ部は、前に5°、後ろに25°の範囲で調整してください。
調整の際は、下図のように両手でフレーム部分を持ってください。



ご注意：角度の調整について

- 記載された範囲以上に倒して使わない
本製品が転倒または破損するおそれがあります。
- 調整の際は、手や指をはさまないように気をつける

設置する

設定する

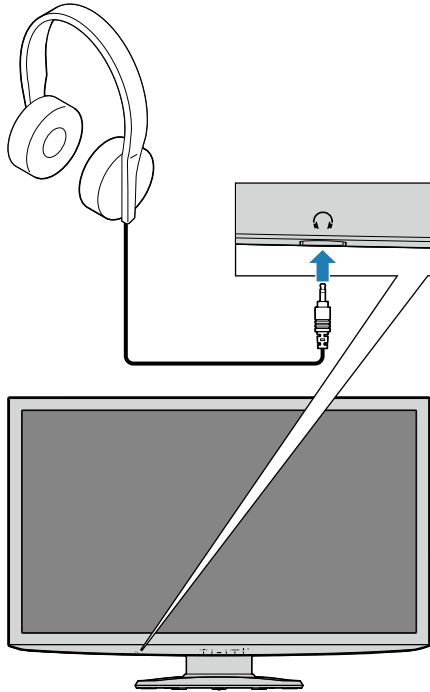
付録

困ったときは

ヘッドホンをつなぐ

本製品の下部にある端子にヘッドホンやイヤホンをつないでください。

ヘッドホン



前面

ご注意：ヘッドホンをつなぐにあたって

- ヘッドホンを耳に付けたままつながない
音量によっては、耳をいためる原因となります。
- 音量を上げすぎない
大音量を長時間続けて聞くと、聴力に悪影響を与えます。

設置する

設定する

付録

困ったときには

設定する

設定メニューを開く	14
映像のズレ(フレーム遅延)を低減する	15
音量を調節する	16
表示する機器を切り換える(入力切換)	17
子画面を表示する	18
表示内容に合わせて、設定を切り換える	22
明るさを調節する	25
ブルーリダクションの設定をする	26
映像を調整する(アナログ)	29
メニューをロックする	33
省電力の設定をする(本製品)	35
省電力の設定をする(Windows)	37

設定メニューを開く

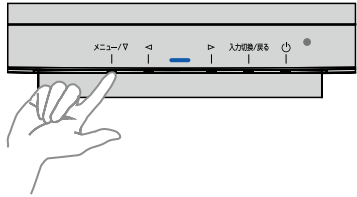
設定メニューとは、本製品の色々な設定をするためのメニューです。

- リモコンの[メニュー] を押します。



ディスプレイのボタンで設定メニューを表示する

[メニュー / ▽] を押します。



ディスプレイのボタンで設定メニューを操作する

メニュー / ▽	1つ下の項目に移動します。
◀▶	項目を選んだり、調整値を増減します。
入力切換 / 戻る	1つ前の項目に戻ります。 戻る項目がない場合は、設定メニューを閉じます。

映像のズレ（フレーム遅延）を低減する

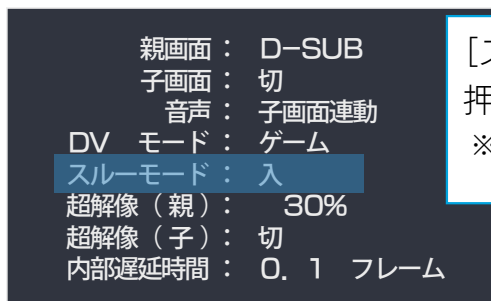
本製品には、画面処理を制限することで内部遅延を低減する[スルーモード]があります。映像と音声のズレが気になる場合にお使いください。

スルーモードを[入]にすると

- 子画面の表示ができなくなります。
- 設定画面の[映像モード] や[サイズ位置] 内の一部の機能が一時的に無効化されます。
これにより、画質が低下する場合があります。
- [画面サイズ] が[アスペクト] になります。
このため、映像信号によっては、表示画面の縦または横方向に黒帯ができます。
- [オーバースキャン] が[100%/フル] になります。
このため、映像信号によっては、映像の外周にノイズが表示されます。
- 480iや1080iの映像信号が入力されている場合、ちらつきが発生することがあります。

スルーモードにできない

入力されている映像信号の垂直周波数(リフレッシュレート) が60Hz以外の場合、スルーモードは使えません。



[スルーモード] を
押す

※ もう一度押すと、
解除されます。



音量を調節する

1



[音量] を押す



2



音量を調節する



設置する

設定する

付録

困ったときには

スピーカーから音が出ない

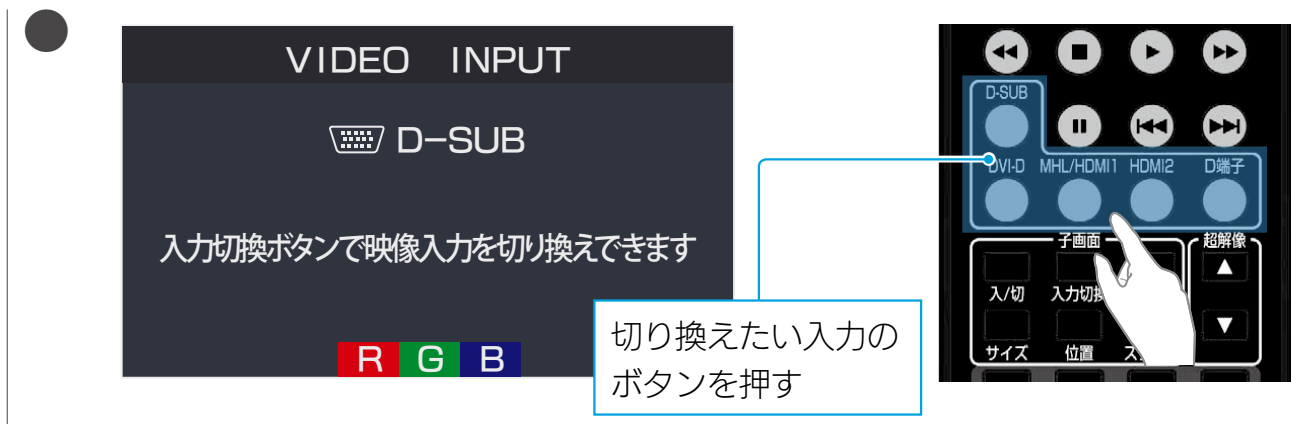
- パソコンをDVI、VGAでつないでいる場合
パソコンの音声出力と本製品のAUDIO INPUTをオーディオケーブルでつないでください。
- パソコンをHDMIでつないでいる場合
パソコン側で音声の出力先を設定する必要があります。
【パソコン側の設定(HDMIでつないだ時)】(7ページ) 参照
- 映像機器をD端子でつないでいる場合
映像機器の音声出力と本製品の「音声」を、**別途用意**したオーディオケーブル(赤と白の端子があるもの)でつないでください。
- モバイル機器をHDMI1/MHLでつないでいる場合
モバイル機器によっては、正しく音声が出ない場合があります。
- 全般
 - 機器側の音量設定を確認してください。
 - ヘッドホンをつないでいると、スピーカーから音が出ません。
 - リモコンの[音声選択] を何度か押して、出力する音声を切り換えてみてください。

リモコンを使わずに音量を調節する

- ① ディスプレイの▷ボタンを押す
⇒ 音声メニューが表示される
- ② ディスプレイの◁▷ボタンで音量を調節する

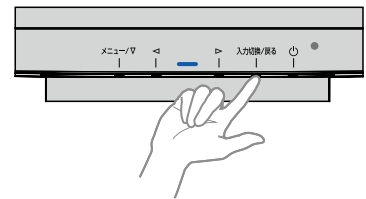
表示する機器を切り換える(入力切換)

本製品につないだ機器の入力を選び、表示する機器を切り換えられます。



リモコンを使わずに入力を切り換える

ディスプレイの[入力切換/戻る]を押します。
⇒入力が順に切り換わります。



設置する

設定する

付録

困ったときには

子画面を表示する

子画面とは

通常表示している画面とは別に、もう1つ小さな画面(子画面)を表示する機能です。子画面は大きさを変えたり、位置を変更したりできます。(PinPのみ)

画面の上に子画面を表示 (PinP)



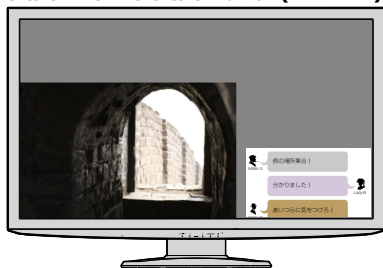
大きさは3種類 (PinP)



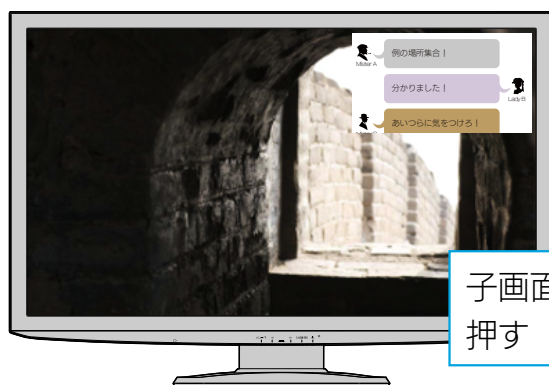
位置は4箇所 (PinP)



画面の外に子画面を表示 (PoutP)



子画面を表示する／消す



子画面の[入/切]を押す



子画面が表示されない

- 親画面と子画面が「D-SUBとD端子」か「MHL/HDMI1とHDMI2」の組み合わせでは表示されません。
- [画面サイズ] [アスペクト比] [オーバースキャン] の設定によっては、子画面は表示されません。
- スルーモードが[入]の場合は、子画面は表示されません。
- 映像信号の垂直周波数が60Hz以外の場合は、子画面は表示されません。

設置する

設定する

付録

困ったときには

表示する機器を選ぶ



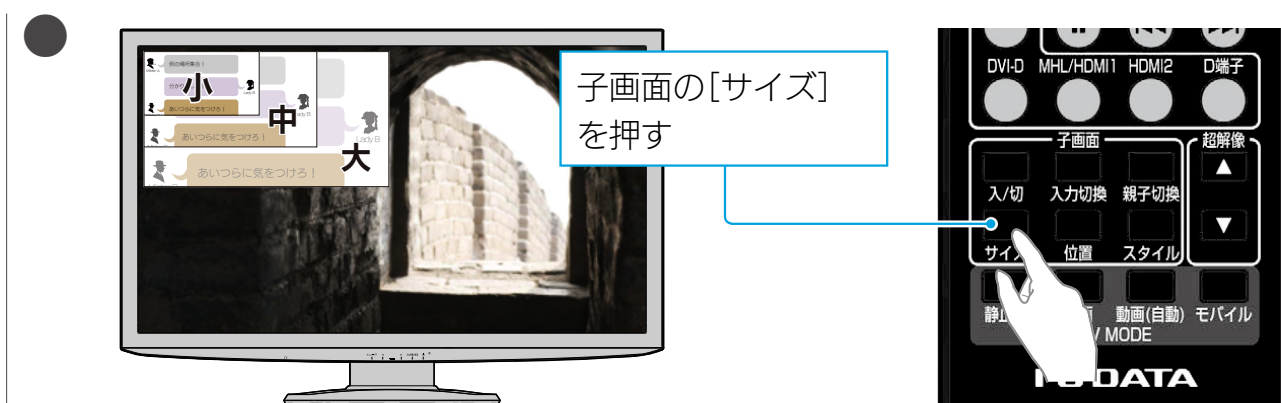
親画面の入力を切り換える

【表示する機器を切り換える(入力切換)】(17ページ) 参照

親画面と子画面の入力を入れ換える

子画面の[親子切換]を押すと、親画面と子画面の入力が入れ換わります。

子画面の大きさを変える



子画面サイズ

映像信号の縦横比(アスペクト比)により、表示する解像度が異なります。

サイズ \ 縦横比	4:3	5:4	16:9
小	320 × 240	300 × 240	426 × 240
中	480 × 360	450 × 360	640 × 360
大	680 × 510	638 × 510	906 × 510

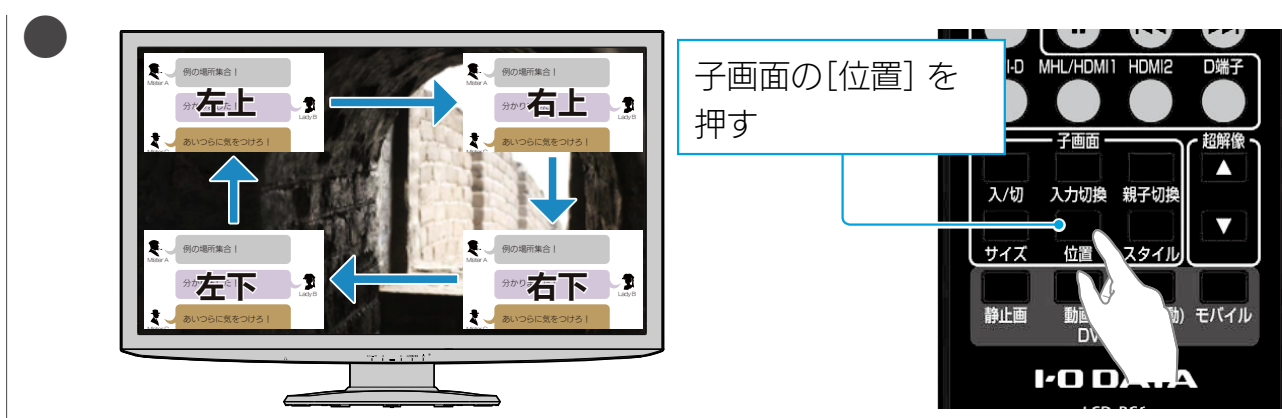
子画面タイプが[PoutP]の場合は、子画面サイズを変更できません

子画面の向きを変える



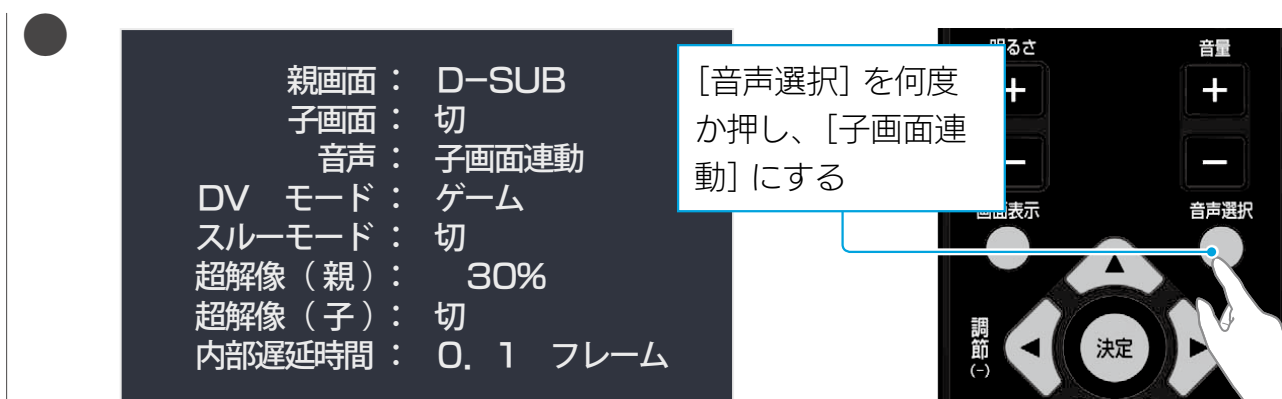
子画面タイプが[PoutP]の場合は、子画面の位置を変更できません

子画面の位置を変える



子画面タイプが[PoutP]の場合は、子画面の位置を変更できません

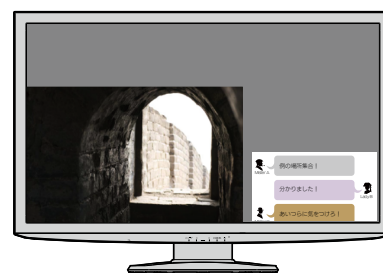
子画面の音声を出力する



画面の外に子画面を表示する (PoutP)

子画面を親画面の右側に独立して表示することができます。
親画面の解像度の横幅1280ドットを超える場合、縦横比を保ったまま1280ドットに縮小して表示されます。

子画面タイプが[PoutP]の場合は、子画面のサイズや位置を変更できません



設置する

設定する

付録

困ったときには

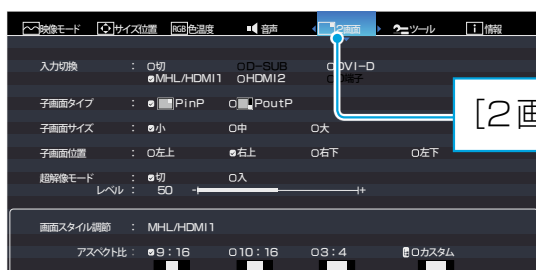
1



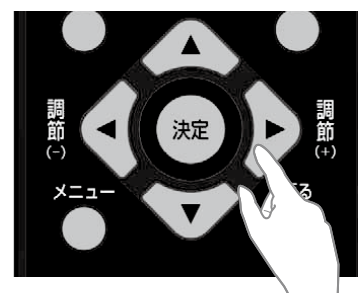
[メニュー] を押す



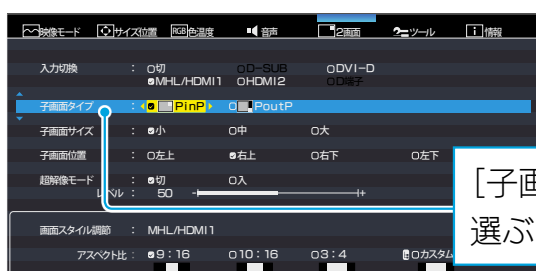
2



[2画面] を選ぶ



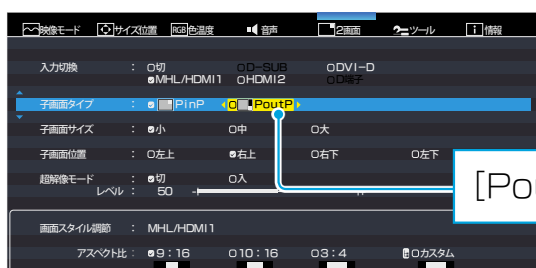
3



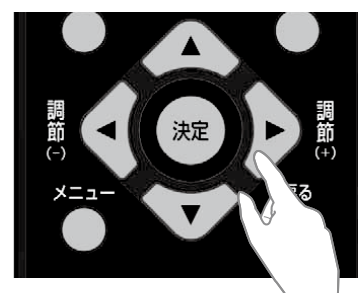
[子画面タイプ] を選ぶ



4



[PoutP] を選ぶ

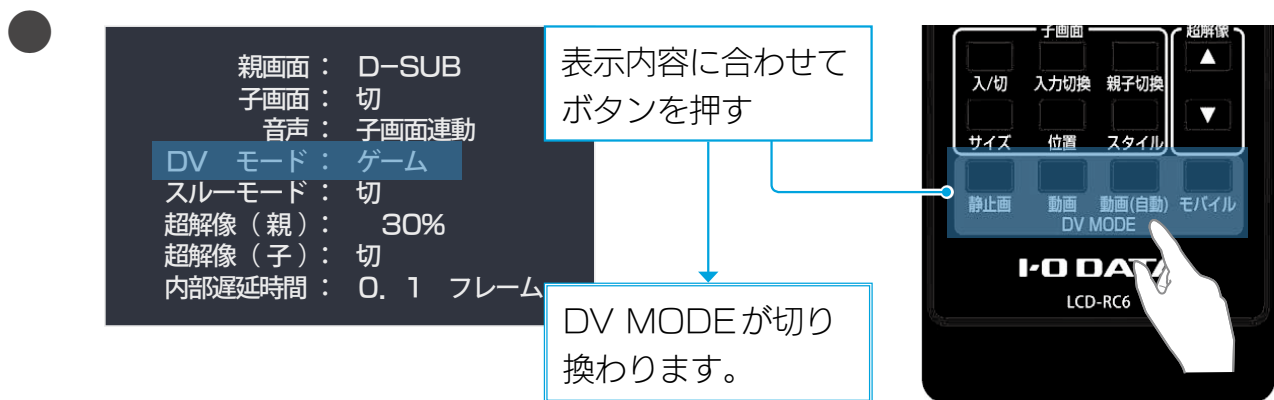


表示内容に合わせて、設定を切り換える

本製品は、表示する内容に合わせて、画面表示の設定(DV MODE)を切り換えられます。DV MODEは入力ごとに選ぶことができます。

また、設定内容も入力ごと、DV MODEごとに設定できます。

DV MODE を切り換える



同じボタンを押すたびに DV MODE が切り換わります

例えば、[静止画] を押すたびに、「スタンダード」→「IVテキスト」→「フォト」→「sRGB」と切り換わります。最後の「sRGB」の次は「スタンダード」に戻ります。

▶切り換わる DV MODE と内容◀

	静止画	動画	動画(自動)	モバイル
1	スタンダード 標準の設定です。	テレビ テレビ番組の視聴に適した設定です。	動画(自動) 入力される動画コンテンツの映像に合わせて、適切な画質に自動的に切り換えます。	テキスト インターネットなどの文字表示が主体の画面に適した設定です。
2	IVテキスト* 全体の明るさ、コントラストを抑え、目が疲れにくく、通常のワープロや表計算ソフトに適した設定です。	ゲーム 中間調にメリハリを付け、より迫力のある画像を提供する解像度の高いゲームに適した設定です。		フォト 写真表示に適した設定です。
3	フォト 写真に適した設定です。	シネマ 暗いシーンの多い映画の鑑賞に適した設定です。		動画(高解像度) モバイル機器で撮影した高解像度の動画に適した設定です。
4	sRGB* 色再現国際規格sRGBに対応した色で表現します。	ネット インターネットのストリーミング動画に適した設定です。		動画(低解像度) ストリーミング動画など、低解像度の動画に適した設定です。
1へ				

※ MHL/HDMI1、HDMI2、D端子入力では、静止画の「IVテキスト」「sRGB」を選べません。

※ [モバイル] の全てのモードは、D-SUB、D端子入力では選べません。

設置する

設定する

付録

困ったときには

DV MODE の設定を変える

1



[メニュー] を押す



設置する

設定する

2



下の項目に移動する



付録

困ったときには

3



設定する大項目を選ぶ



4



下の項目に移動する



5



DV MODEを飛ばす

リモコンでDV MODEを選ぶ際、任意のDV MODEを選べないようにできます。

▶ DV MODEを飛ばすように設定する◀

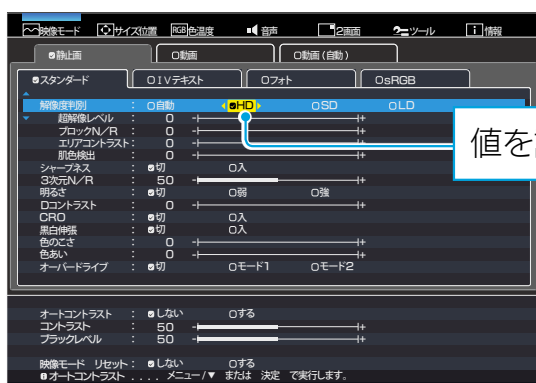
- ① 設定メニューでDV MODEを選び、決定ボタンを押す。
 - ② 選ばれていたDV MODEの横に「」が表示されます。
- が表示されたDV MODEはリモコンで選ばれません。



6



7



設置する

設定する

付録

困ったときには

明るさを調節する

1



[明るさ] を押す



2



明るさを調節する



リモコンを使わずに明るさを調節する

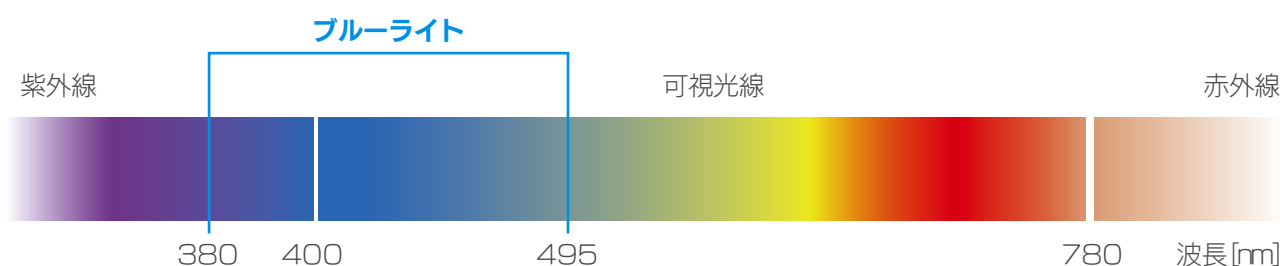
- ① ディスプレイの◀ボタンを押す
⇒ 明るさメニューが表示される
- ② ディスプレイの◀▶ボタンで明るさを調節する

ブルーリダクションの設定をする

パソコンで作業をする際に目が疲れる原因とされるブルーライト。
ブルーリダクションはディスプレイ自体がブルーライトを低減させるという新しい発想の機能です。

ブルーライト（青色光）とは

ディスプレイから発せられる青い光は、パソコン作業時に目が疲れる原因とされています。また、長時間浴びることで体内時計を狂わせる作用があるとも言われています。



※ ブルーライトとは380nm～495nmの青色領域の光を指しています。

ブルーリダクション機能とは

青色成分の低減を5段階で調節することができます。
写真鑑賞やデザインの際には強度を弱く、事務作業の際には強度を強くするなど、作業内容に合わせてご調整いただけます。

ブルーリダクション強度による画面の変化イメージ



※本書のブルーリダクション機能に関する画面はすべてイメージです。

ブルーリダクション機能を設定する

1



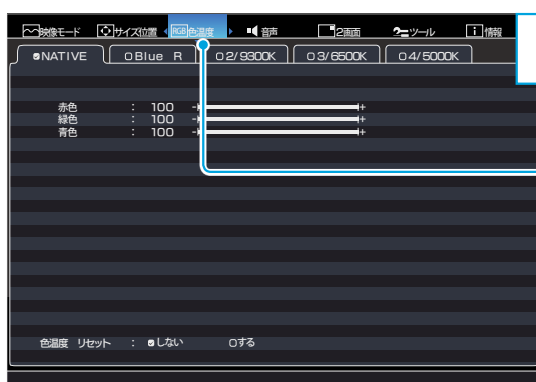
[メニュー] を押す



設置する

設定する

2



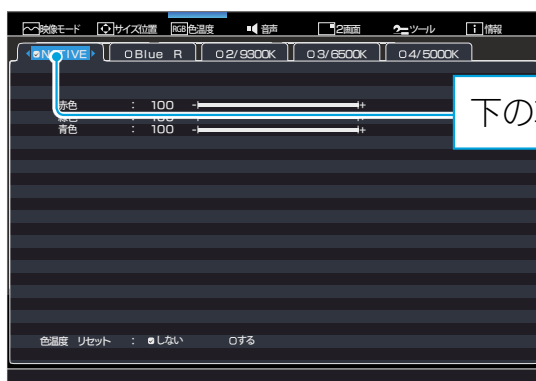
[色温度] を選ぶ



付録

困ったときには

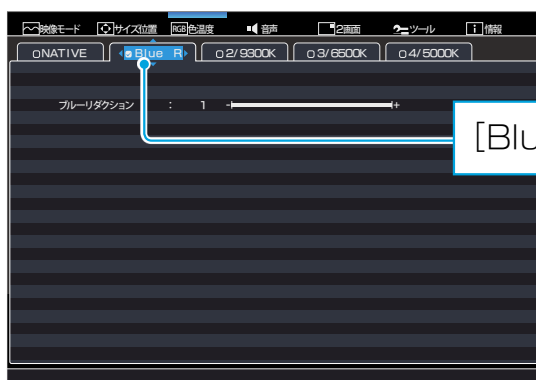
3



下の項目に移動する



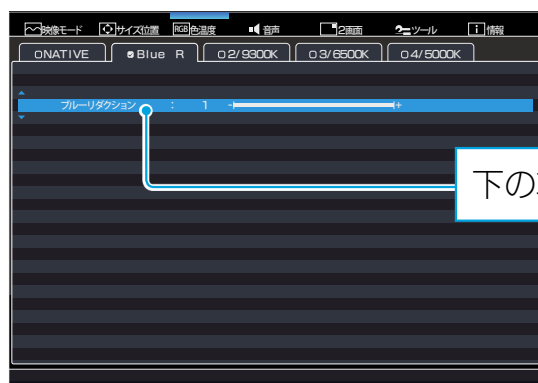
4



[Blue R] を選ぶ



5



下の項目に移動



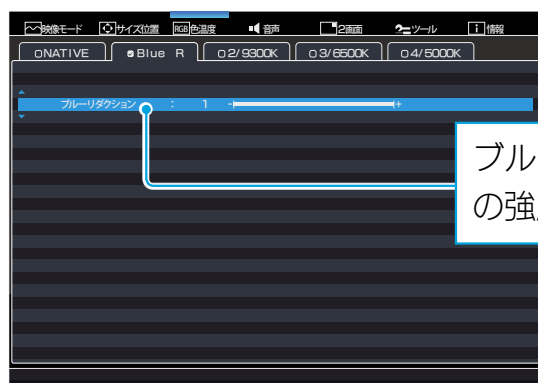
設定する

設定する

付録

困ったときには

6



ブルーリダクション
の強度を調節



映像を調整する (アナログ)

パソコンをアナログ(D-SUB) 入力している環境で、表示に「にじみ」や「ちらつき」がある場合にお試しください。

自動で調整する

1 画面全体が白くなるように、ワープロソフトの編集画面などを画面いっぱいに表示する

2



[メニュー] を押す



3



[オートコントラスト] を選ぶ



4



[する] を選び、
[決定] を押す

コントラストが自動
調節されます。
「実行中」が消えるま
でお待ちください。



5



「戻る」を何度か押し、
一番上の項目まで
戻る



設置する

設定する

付録

困ったときには

6



「サイズ位置」を選ぶ



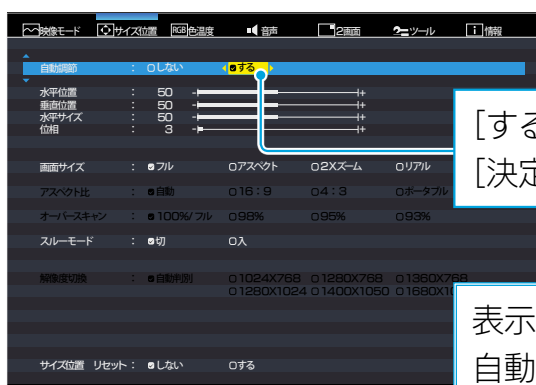
7



「自動調節」を選ぶ



8



「する」を選び、
「決定」を押す

表示位置やサイズが
自動調節されます。
「実行中」が消えるま
でお待ちください。



手動で調整する

自動調整で状態が改善されない場合は、手動で調整することにより状況が改善することがあります。

より効果的に調整するには

「LCD 調整ユーティリティ」を使うと、調整用画面を表示し、効果的に調整ができます。

【映像調整用ソフトウェア(アナログ)】(55ページ) 参照

調整する内容

ちょうど画面内に映像が収まるように、画面の表示幅(サイズ)と表示位置(水平位置、垂直位置)を調整します。また、

調整の方法

1



[メニュー] を押す



2



[サイズ位置] を選ぶ



設定する

設定する

付録

困ったときには

3



調整する内容を選ぶ

水平位置	画面の水平方向の位置
垂直位置	画面の垂直方向の位置
水平サイズ	画面の水平幅
位相	ノイズ、にじみ、ぼやけを低減

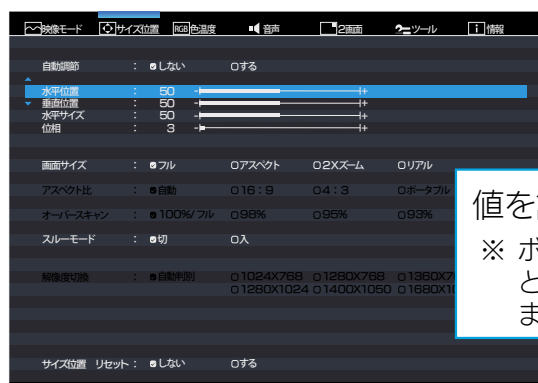
設置する

設定する

付録

困ったときには

4



値を調整する

※ ボタンを長押しすると、値が増減し続けます。

メニューをロックする

設定した項目を変えたくない場合など、設定メニューを表示しないようにできます。

メニューのロックとは

本体の[メニュー/マ]を押しても、設定メニューが表示されなくなります。

※ リモコンでは、問題なく操作することができます。

※ 設定メニュー表示以外の、本体ボタンによる入力切替、電源の入/切、明るさと音量の調節は可能です。

1



[メニュー] を押す



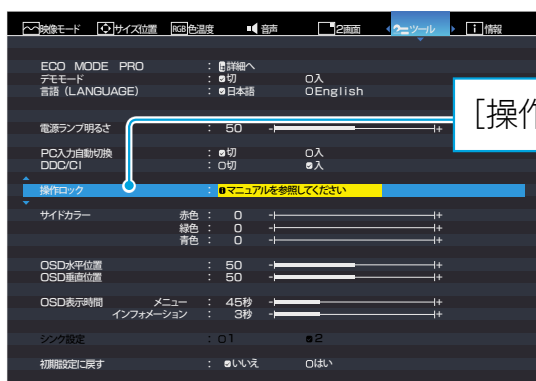
2



[ツール] を選ぶ



3



[操作ロック] を選ぶ



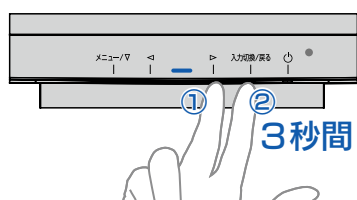
設置する

設定する

付録

困ったときには

4



本体の▷を押しなが
ら[入力切替/戻る]
を3秒間押し続ける

メニューのロックを解除する

- ① 本体の[メニュー/▽] を押し、「操作ロック中」を表示します。
- ② 本体の▷を押しながら[入力切替/戻る] を3秒間押し続ける
⇒ロックが解除されます。

設置する

設定する

付録

困ったときは

省電力の設定をする (本製品)

本製品の省電力に関する設定を調節します。

1



[メニュー] を押す



設置する

設定する

付録

困ったときには

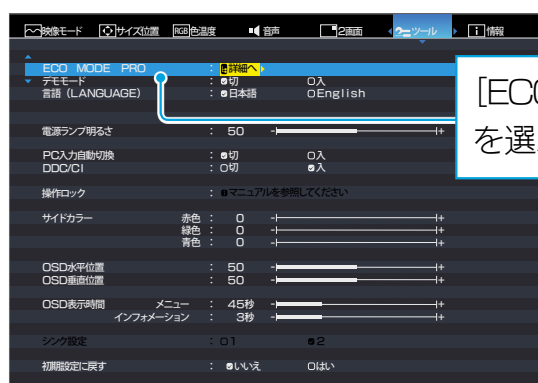
2



[ツール] を選ぶ



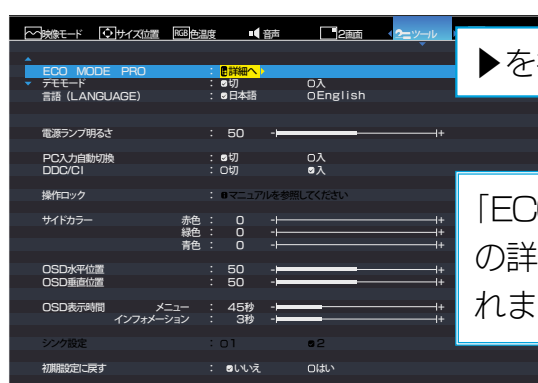
3



[ECO MODE PRO] を選ぶ



4



▶を押す

「ECO MODE PRO」の詳細画面が表示されます。



5



[ECO設定] の強度
を選ぶ



ECOスケールを表示する

ECOスケールは、ECO設定で削減した電力量を表示します。
ECOスケールは、設定した透過率で画面右下に表示されます。

●ECOスケールの表示方法

ECO MODE PRO 詳細画面の[ECOスケール表示] で[入] を選ぶ
⇒ECOスケールが表示されるようになります。

※ECOスケールの透過率は[ECOスケールシースルー] で設定できます。



省エネ電力量

ECO MODE PRO 詳細画面の下部にECO設定で削減した電力の総量や省エネ率、CO₂削減量が表示されます。

設置する

設定する

付録

困ったときには

省電力の設定をする (Windows)

パソコンの省電力モードを働かせるためには、お使いのWindowsにあった設定をしてください。

※ 省電力モードを働かせるためには、グラフィックアクセラレータボードがVESA DPM規格に対応している必要があります。

▶ Windows 8/7 の場合	37
▶ Windows Vista の場合	38
▶ VESA DPM対応のディスプレイ省電力の流れ	38

Windows 8/7 の場合

- 1 (Windows 8のみ) デスクトップモードにする
- 2 デスクトップを右クリックし、表示されたメニューの[個人設定] をクリック
- 3 [スクリーンセーバー] → [電源設定の変更] の順にクリック
- 4 [バランス] か[省電力] を選び、その横の[プラン設定の変更] をクリック
- 5 [変更の保存] をクリック

Windows Vista の場合

- 1 デスクトップを右クリックし、表示されたメニューの[個人設定] をクリック
- 2 [スクリーンセーバー] → [電源設定の変更] の順にクリック
- 3 [お気に入りプラン] の[プラン設定変更] をクリック
- 4 [ディスプレイの電源を切る] で省電力になるまでの時間を設定する

設置する

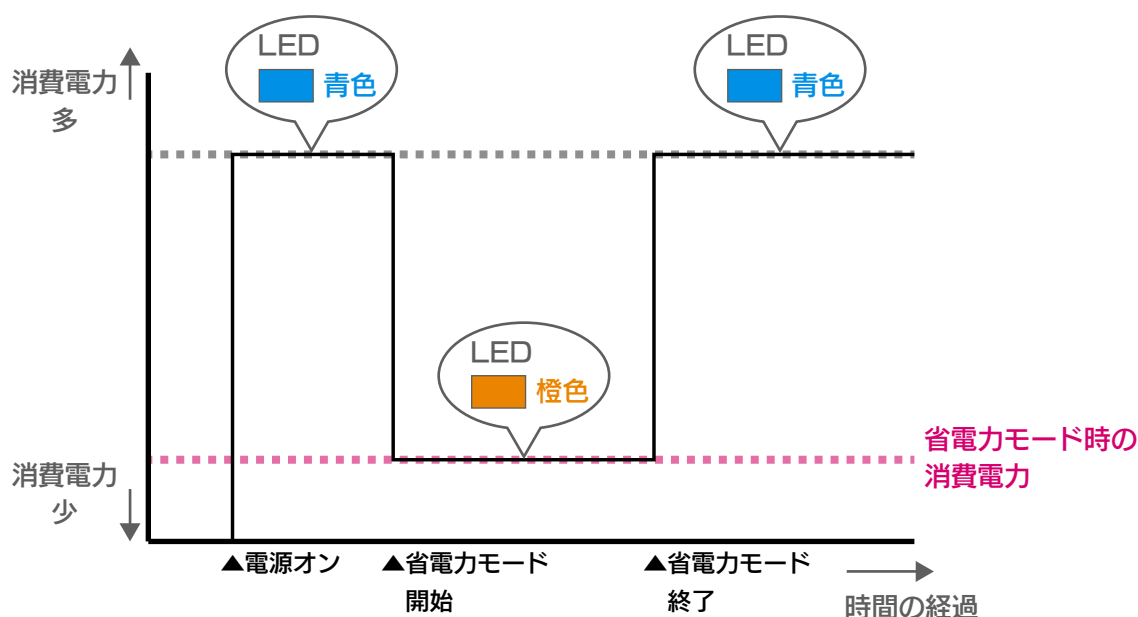
設定する

付録

困ったときは

VESA DPM 対応のディスプレイ省電力の流れ

グラフィックボードから出力される信号の変化をディスプレイが検出して、省電力モードに移行したり、復帰したりします。



省電力モードとは

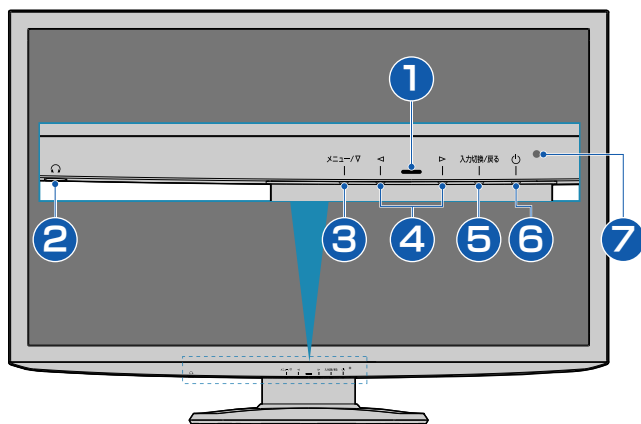
一定時間パソコンを操作しなかった場合やパソコンの電源を切った場合に、自動的にディスプレイの消費電力を抑える機能のことです。

省電力モード時は画面は真暗になります。

各部の名称	40
設定メニュー	43
映像調整用ソフトウェア (アナログ)	55
スタンドを取り外す	56
VESA アームを取り付ける	57
用語解説	59
ハードウェア仕様	61

各部の名称

前面



① 電源ランプ	電源 切 時 : 消灯 電源 入 時 : 青点灯 節電状態時: 青点滅
②	【ヘッドホンをつなぐ】 (12ページ) 参照
③ メニュー/▽	設定メニューを表示します。 設定メニューを開いているときは、1つ下の項目に移動します。
④ ◀▶	設定メニュー上で、項目を選んだり、調整値を増減します。 ※ 設定メニューが表示されていないときに押すと、◀で明るさ設定、▶で音量設定を開きます。
⑤ 入力切替/戻る	入力を切り換えます。 設定メニューを開いているときは、1つ前の項目に戻ります。 戻る項目がない場合は、設定メニューを閉じます。
⑥ 電源ボタン	電源を入/切します。
⑦ 受光部	リモコンの操作を受け付けます。

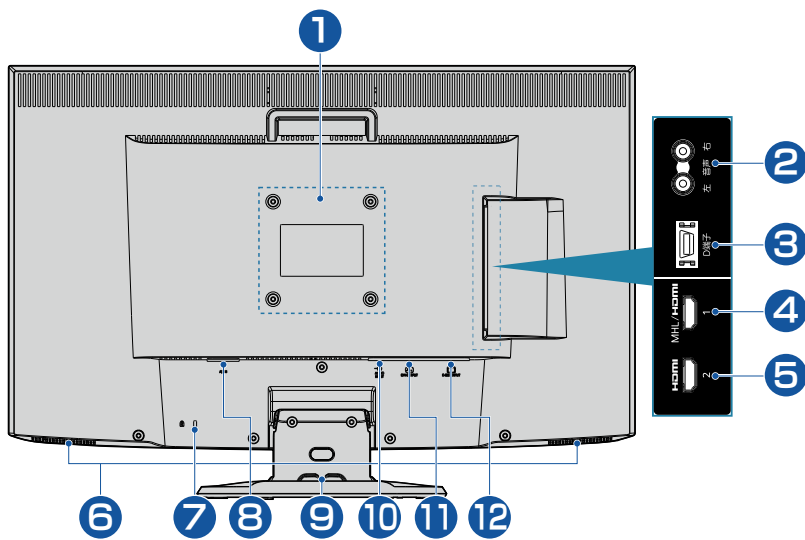
設置する

設定する

付録

困ったときには

背面



① VESA ネジ穴	VESA アームなどを取り付けることができます。 【VESAアームを取り付ける】 (57 ページ) 参照
② 音声入力(D端子)	映像機器とつなぎます。
③ 映像入力(D端子)	【映像機器とつなぐ】 (8 ページ) 参照
④ MHL/HDMI1	パソコンや映像機器とつなぎます。 【パソコンとつなぐ】 (5 ページ) 参照 【映像機器とつなぐ】 (8 ページ) 参照 また、モバイル機器とつなぎます。 【モバイル機器とつなぐ】 (9 ページ) 参照
⑤ HDMI2	パソコンや映像機器とつなぎます。 【パソコンとつなぐ】 (5 ページ) 参照 【映像機器とつなぐ】 (8 ページ) 参照
⑥ スピーカー	音声を出力します。
⑦ 盗難防止ホール	市販のセキュリティーケーブルを取り付けることができます。
⑧ 電源入力	電源コードをつなぎます。
⑨ ケーブルホルダー	つないだケーブルを、すっきりまとめます。
⑩ 音声入力	パソコンとつなぎます。
⑪ アナログ入力	【パソコンとつなぐ】 (5 ページ) 参照
⑫ デジタル入力	

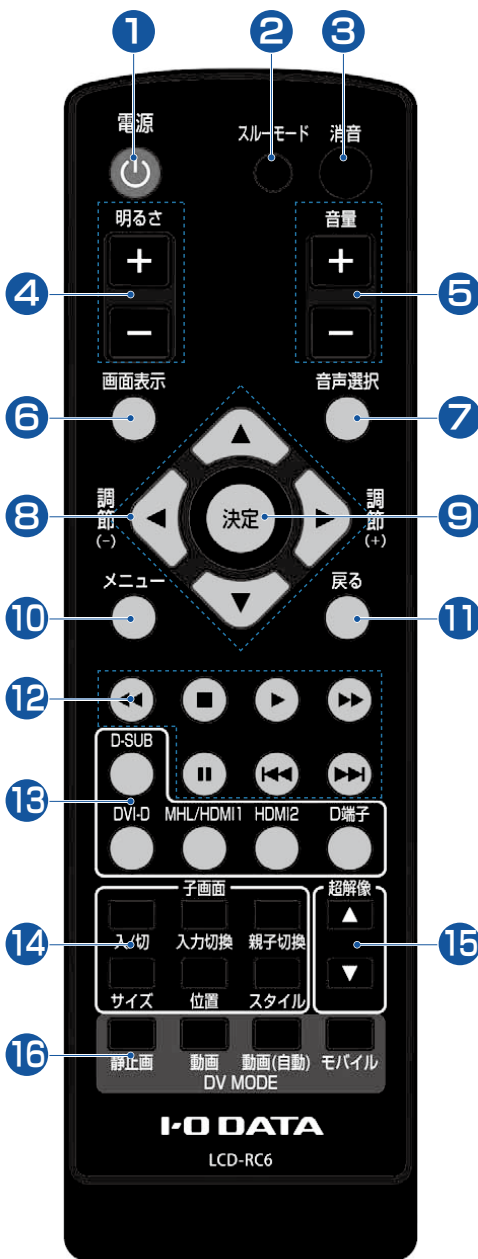
設置する

設定する

付録

困ったときには

リモコン



① 電源	電源を入/切します。
② スリーモード	【映像のズレ(フレーム遅延)を低減する】(15ページ)
③ 消音	音を消します。 もう一度押すと、音声が出ます。
④ 明るさ	画面の明るさを調節します。
⑤ 音量	音量を調節します。
⑥ 画面表示	画面右上に状態を表示します。
⑦ 音声選択	画面表示にかかわらず、音声の入力を切り換えます。
⑧ △▽◀▶	設定画面を操作します。また、MHLケーブルでつないだモバイル機器を操作できます。*
⑨ 決定	設定画面で選んだ項目を実行します。また、MHLケーブルでつないだモバイル機器を操作できます。*
⑩ メニュー	設定画面を開きます。また、1秒以上押し続けると、MHLケーブルでつないだモバイル機器がホーム画面に戻ります。*
⑪ 戻る	設定画面で1つ前の項目に戻ります。戻る項目がない場合は、設定メニューを閉じます。また、MHLケーブルでつないだモバイル機器を操作できます。*
⑫ モバイル機器の動画操作	MHLケーブルでつないだモバイル機器で動画再生中に利用できます。*
⑬ 入力切換	入力を切り換えます。
⑭ 子画面	【子画面を表示する】(18ページ)
⑮ 超解像	親画面の「超解像レベル」を調節します。 超解像とは、解像度感を高めた美しい映像に変換する機能です。
⑯ DV MODE	【表示内容に合わせて、設定を切り換える】(22ページ)

※ モバイル機器やアプリによっては操作できません。

設置する

設定する

付録

困ったときには

設定メニュー

▶映像モード	43
▶サイズ位置	45
▶色温度	47
▶音声	48
▶2画面	49
▶ツール	51
▶情報	54

設置する

設定する

付録

困ったときには

映像モード



項目	説明
DV MODE	DV MODEとは、表示する内容に合わせた画質を設定・選択できる12のモードの総称です。DV MODEごとに枠内の設定を調節できます。（「コントラスト」「ブラックレベル」は共通です。）また、DV MODEは入力ごとに別で保存されます。 • MHL/HDMI1、HDMI2、D端子入力のときは、「IVテキスト」「sRGB」は選べません。 • DV MODEを選んでいる時に、リモコンの[決定]を押すと「スキップ設定」され、スキップアイコンが表示されます。この状態では、リモコンによるDV MODE切り換えでスキップ設定されたDV MODEは選ばれません。 【同じボタンを押すたびにDV MODEが切り換わります】（22ページ）
解像度判別	入力される映像の解像度に応じて、[超解像レベル] [ブロックN/R] [エリアコントラスト] [肌色検出]を設定できます。 自動：自動で入力映像の解像度を判別し、判別した解像度に応じた効果を適用します。 HD：高解像度の映像に適した効果を適用します。 SD：中解像度の映像に適した効果を適用します。 LD：ストリーム動画コンテンツなど、低解像度の映像に適した効果を適用します。

項目	説明
超解像レベル	静止画／自然画および動画コンテンツをより解像度感を高めた画像に変換、美しい映像をご覧いただけます。 ※ 超解像技術の効果は入力画像の種類や解像度によって異なります。 コンテンツによってはノイズやちらつきが発生する場合があります。
ブロックN/R	圧縮されたコンテンツを表示する際に見える四角いブロックノイズを低減します。 ※ 効果を強くかけすぎると、全体がぼやけた映像になります。 ※ [解像度判別] の設定によって、効果の程度が変化します。 (効果大) LD > SD > HD (効果小)
エリア コントラスト	明るい部分と暗い部分が混在している場合でも、明るい部分、暗い部分、それぞれの部分に対してコントラスト感を改善することができます。 [Dコントラスト] と併用することで、全体のコントラスト感を上げながら、映像の細部もしっかり表現することができます。 <動作例> 画面全体が明るい映像の場合： Dコントラストだけでは、明るい部分のコントラスト感は向上しますが、暗い部分の映像の鮮明さが弱くなります。 エリアコントラストを動作させることにより、暗い部分のコントラスト感を改善します。 画面全体が暗い映像の場合： Dコントラストだけでは、暗い部分のコントラスト感は向上しますが、明るい部分の映像の鮮明さが弱くなります。 エリアコントラストを動作させることにより、明るい部分のコントラスト感を改善します。 ※ [解像度判別] の設定によって、効果の程度が変化します。 (効果大) LD > SD > HD (効果小)
肌色検出	映像中の肌色部分を検出し、[超解像レベル] [ブロックN/R] の効果の適用範囲を変えます。 「超解像レベル」は、肌色部分に対して効果が弱くなります。(しわなどは強調しません) 「ブロックN/R」は、肌色以外の部分に対して効果が弱くなります。(人肌がなめらかに表現されます)
シャープネス	映像の文字や画像の輪郭が強調されます。
3次元N/R	映像の細かいざらつき(モスキートノイズ)を低減します。 ※ 3次元N/Rをかけると、細部がぼやける傾向があります。
明るさ	画面の明るさを調節します。
Dコントラスト	コントラスト感を改善して、鮮明な映像にします。 ※ DV MODEで[フォト] [sRGB] を選んでいるときは、Dコントラストを使えません。 ※ 子画面表示中に、画面スタイルが[自動] に設定されているときは、Dコントラストは使えません。
CRO (コントラストレシオオプティマイザー)	映像の明るさに応じて、バックライトの輝度をリアルタイムに制御します。 画面全体が暗い場合でも、深みのある黒を映し出します。 ※ DV MODEで[フォト] [sRGB] を選んでいるときは、CROを使えません。
黒白伸張	入力映像に対して、「黒白伸張」をするかどうかを選びます。黒が引き締まります。 入：ゲーム機器やDVDプレーヤーの映像を視聴する場合に選んでください。 切：コンピューターの映像を視聴する場合に選んでください。 ※ 映像が黒浮きしているような場合は、[入] を選んでください。 映像の黒領域、白領域の階調がつぶれているような場合は、[切] を選んでください。 ※ DV MODEで[IVテキスト] [フォト] [sRGB] を選んでいるときは、黒白伸張を使えません。
色のこさ	お好みに応じて画面の色の濃さを調節できます。値を大きくすると、色が濃くなります。 ※ DV MODEで[IVテキスト] [sRGB] を選んでいるときは、色のこさを使えません。
色あい	お好みに応じて画面の色あいを調節できます。 値を大きくすると、肌色が緑掛かります。値を小さくすると、肌色が紫掛かります。 ※ DV MODEで[IVテキスト] [sRGB] を選んでいるときは、色あいを使えません。
オーバー ドライブ	動きの速い映像でも、ぼやけ感を抑制します。[モード1] より[モード2] の方が強く掛かります。 ※ 映像に色飛び等が発生する場合は、[モード1] または[切] に設定してください。 ※ コンテンツによってはノイズやちらつきが発生します。その場合は、[切] にしてください。
オート コントラスト	D-SUB入力の場合のみ有効です。コントラストを自動調節します。 【映像を調整する(アナログ)】(29ページ)
コントラスト	画面のコントラスト(明暗比)を調節します。
ブラックレベル	黒の表示を調節します。
映像モード リセット	画面に表示されている映像モードの項目すべてを出荷時設定に戻します。

設置する

設定する

付録

困ったときは

サイズ位置

映像モード

サイズ位置

RGB色温度

音声

2画面

ツール

情報

自動調節

:

☒しない

☐する

水平位置

:

50

-

+

垂直位置

:

50

-

+

水平サイズ

:

50

-

+

位相

:

3

-

+

画面サイズ

:

☒フル

☐アスペクト

☐2Xズーム

☐リアル

アスペクト比

:

☒自動

☐16:9

☐4:3

☐ポータブル

オーバースキャン

:

☒100%/フル

☐98%

☐95%

☐93%

スルーモード

:

☒切

☐入

解像度切換

:

☒自動判別

☐1024X768

☐1280X768

☐1360X768

☐1280X1024

☐1400X1050

☐1680X1050

サイズ位置 リセット

:

☒しない

☐する

項目	説明
自動調節	入力が「D-SUB」のときのみ使えます。 左右、上下方向の表示位置、水平サイズや位相を自動調節します。 【映像を調整する(アナログ)】(29ページ)
水平位置	左右方向の表示位置を調節します。 ※ 入力が「DVI-D」のときは、使えません。 ※ 入力が「MHL/HDMI1」「HDMI2」「D端子」のときは、オーバースキャン動作時(100%フル以外)に使えます。
垂直位置	上下方向の表示位置を調節します。 ※ 入力が「DVI-D」のときは、使えません。 ※ 入力が「MHL/HDMI1」「HDMI2」「D端子」のときは、オーバースキャン動作時(100%フル以外)に使えます。
水平サイズ	入力が「D-SUB」のときのみ使えます。 画面に縦縞が現れるときや左右の画面サイズがあっていないときに調節します。
位相	入力が「D-SUB」のときのみ使えます。 画面に横方向のノイズが表示されたり、文字のにじみ、輪郭のぼやけが起こった場合に調節します。
画面サイズ	自動的に表示画面を拡大する機能です。入力信号の解像度が表示画素数より低い場合に機能します。オーバースキャン動作時は、選択された画面サイズに対してオーバースキャン表示をします。 フル : 入力映像信号を画面全体に拡大します。 アスペクト比(縦横比率)が16:9以外の信号の場合、アスペクト比が変わります。 アスペクト : 入力映像信号のアスペクト比を保持したまま、できるだけ画面いっぱいに拡大します。このため、映像信号によっては、表示画面の縦または横方向に黒帯ができます。 2xズーム : 入力映像信号の解像度を縦横2倍に拡大表示します。 縦横2倍拡大できない映像信号の場合は、「リアル」と同じ動作となります。 リアル : 入力映像信号の解像度のままで表示します。(画面は拡大されません。)

設定する

設定する

付録

困ったときには

項目	説明
アスペクト比	入力が「MHL/HDMI1」「HDMI2」「D端子」で、D1/D2の映像信号が入力されたときのみ有効です。[画面サイズ]が[アスペクト] [2xズーム] [リアル]で、アスペクト比(縦横比)が保持されていないときに調節します。 自動 : 16:9と4:3の映像信号が正しいアスペクト比になるように自動調節します。 16:9 : 16:9の映像信号が正しいアスペクト比になるように調節します。 その他の映像信号では円が縦につぶれます。 4:3 : 4:3の映像信号が正しいアスペクト比になるように調節します。 その他の映像信号では円が横につぶれます。 ポータブル : D端子入力の場合のみ有効です。携帯用ゲーム機器から出力された720×480の映像信号が、自動的にフルスクリーンでディスプレイに表示されます。
オーバー スキャン	画面の外周部をカットし、ノイズを隠すことができます。 100%/フル : 入力した映像信号をそのまま表示します。 映像によっては、画面の外周部にノイズが表示されます。 98% : 入力した映像信号の周囲をカットし、元映像の98%表示します。 95% : 入力した映像信号の周囲をカットし、元映像の95%表示します。 93% : 入力した映像信号の周囲をカットし、元映像の93%表示します。 ※ パソコンからの映像信号(D-SUB/DVI-D)では、オーバースキャンは使えません。 ※ [100%/フル]以外に設定すると、画面位置が調節できるようになります。 ※ [スルーモード]を[入]に設定すると、オーバースキャンは[100%/フル]になります。
スルーモード	ディスプレイ内部の映像信号の遅延時間を短縮するモードです。映像と音声のズレが気になる場合にお使いください。 ※ スルーモードは、画像処理を制限することで、内部遅延を低減しています。 このため、設定画面の[映像モード]や[サイズ位置]内の一部の機能が一時的に無効化されます。 これにより、画質が低下する場合があります。 ※ スルーモードを使っても、映像と音声同期しない場合があります。 ※ 静止画を表示する場合は、[切]でお使いになることをおすすめします。 ※ 子画面の表示ができなくなります。 ※ [画面サイズ]が[アスペクト]になります。 このため、映像信号によっては、表示画面の縦または横方向に黒帯ができます。 ※ [オーバースキャン]は[100%/フル]になります。 ※ 480iや1080iの映像信号が入力されている場合、ちらつきが発生することがあります。 ※ 入力されている映像信号の垂直周波数(リフレッシュレート)が60Hz以外の場合、スルーモードは使えません。
解像度切換	D-SUB入力の場合のみ有効です。 解像度を正しく自動判別できない場合、直接解像度を指定することにより、正しく表示することができます。 ※ 画面上に表示されている解像度以外の信号(例:640×480)が入力された場合、機能しません。
サイズ位置 リセット	サイズ位置のページの項目のすべてを出荷時設定に戻します。

設定する

設定する

付録

困ったときには

色温度



項目	説明
モード	お好みに応じて、画面の色温度を5つのモードから選べます。 NATIVE : 液晶パネル本来の色温度で表示します。(調節できません) Blue R : ブルーリダクションを設定できます。 2/9300K : 色温度9300Kで表示します。 3/6500K : 色温度6500Kで表示します。 4/5000K : 色温度5000Kで表示します。
赤色	それぞれの色を個別に調節できます。 ※ 調節すると、モードの表示が「USER」に変わります。
緑色	
青色	
ブルー リダクション	表示画面の青色成分を低減します。(Blue Rのみ) 【ブルーリダクションの設定をする】(26ページ)
色温度リセット	色温度の項目すべてを出荷時設定に戻します。

色温度

9300Kの発色は鮮やかですがやや青白く感じられます。

6500Kは昼光色とも呼ばれ自然な白色が表現できます。

5000Kは昼白色と呼ばれ、太陽光に近いですが、テレビに比べるとやや黄色っぽく感じられます。

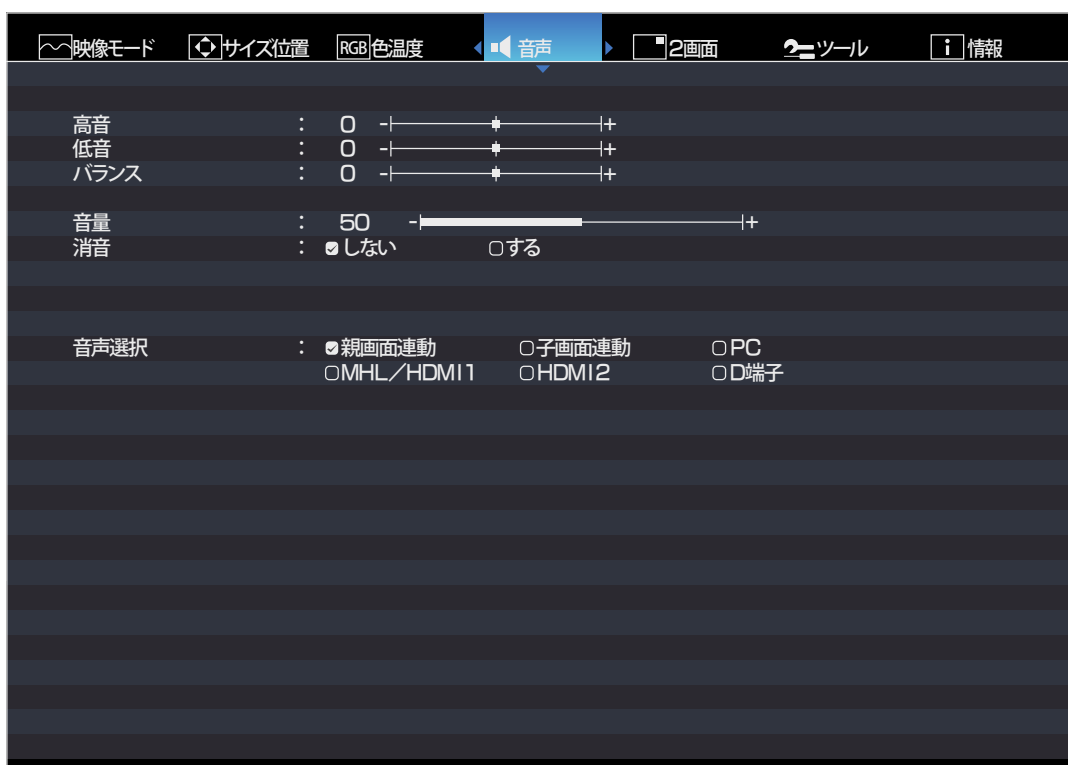
設置する

設定する

付録

困ったときには

音声



項目	説明
高音	高音域の音量を調節します。
低音	低音域の音量を調節します。
バランス	左右の音のバランスを調節します。
音量	音量を調節します。
消音	消音機能を操作します。
音声選択	どの入力の音声を出力するか選べます。 親画面連動：親画面に入力された映像の音声を出力します。 子画面連動：子画面に入力された映像の音声を出力します。 子画面が表示されていない時は、親画面連動と同様です。 PC、MHL/HDMI1、HDMI2、D端子： それぞれの入力の音声が出力されます。 ※ 映像と音声を、「MHL/HDMI1」と「HDMI2」で組み合わせることはできません。 ※ 「MHL/HDMI1」「HDMI2」の音声を選んだ場合、すぐに音声が出力されないことがあります。

設定する

設定する

付録

困ったときには

2 画面



項目	説明																				
入力切換	子画面に表示させたい映像入力を選びます。[切] を選ぶと子画面は消えます。 【子画面を表示する】(18ページ) ※ 親画面と子画面を、「MHL/HDMI1」と「HDMI2」、「D-SUB」と「D端子」で組み合わせることはできません。 ※ 子画面の音声を出力したい場合は、設定メニューの[音声]にある[音声選択]を[子画面連動]に設定してください。 ※ 映像信号の垂直周波数が60Hz以外の場合、2画面表示できない場合があります。 ※ 設定メニューの[サイズ位置]にある[画面サイズ] [アスペクト比] [オーバースキャン] の設定によっては、2画面表示できない場合があります。 ※ [スルーモード] が[入] のときは、2画面表示はできません。																				
子画面タイプ	子画面の種類を選びます。 PinP : 親画面の中に子画面を表示します。 PoutP : 親画面の右側に子画面を表示します。 ※ PoutPを選んだ場合、親画面の解像度の横幅1280ドットを超える場合、縦横比を保ったまま1280ドットに縮小して表示されます。 例: 親画面の入力映像が1920×1080の場合、親画面は1280×720で表示されます。																				
小画面サイズ	子画面の大きさを設定します。 映像信号の種類によって、適切な縦横比で、子画面表示します。 <table><tr><th>映像信号</th><th>4 : 3</th><th>5 : 4</th><th>16 : 9</th></tr><tr><th>サイズ</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>小</td><td>320×240</td><td>300×240</td><td>426×240</td></tr><tr><td>中</td><td>480×360</td><td>450×360</td><td>640×360</td></tr><tr><td>大</td><td>680×510</td><td>638×510</td><td>906×510</td></tr></table> ※ [子画面タイプ] が[PoutP] の場合は、選べません。	映像信号	4 : 3	5 : 4	16 : 9	サイズ				小	320×240	300×240	426×240	中	480×360	450×360	640×360	大	680×510	638×510	906×510
映像信号	4 : 3	5 : 4	16 : 9																		
サイズ																					
小	320×240	300×240	426×240																		
中	480×360	450×360	640×360																		
大	680×510	638×510	906×510																		
子画面位置	子画面の位置を選べます。 ※ [子画面タイプ] が[PoutP] の場合は、選べません。																				
超解像モード	子画面の超解像レベルを設定します。 ※ ここの設定が[入] であり、[映像モード]にある(親画面の) [超解像レベル] が[0] 以外の場合、そちらの設定が子画面にも適用されます。																				

項目	説明
画面スタイル調節	スマートフォンなどのモバイル機器からの出力映像を、子画面に表示する場合の設定です。子画面入力に、[MHL/HDMI1] [HDMI2] の映像が表示されているときのみ使えます。
アスペクト比	子画面のアスペクト比(縦横比) を指定できます。 ※ 選んだアスペクト比が正しくない場合は、[画面スタイル] の[自動] が正しく動作しないことがあります。
画面スタイル	子画面の向きを設定できます。 ※ [自動] では、黒帯部分を正しく検出できない場合があります。 「ヨコ」が「タテ」に切り換えてお使いください。 ※ カスタムでの調節中は、子画面が点滅します。 ※ モバイル機器によっては、カスタムで調節しても、黒帯部分を完全に取り除くことができません。 ※ 縦画面が表示されている場合、オーバースキャンの設定は反映されません。 画面スタイルの設定が優先されます。 ※ [自動] が選ばれているときは、[映像モード] の[Dコントラスト] は使えません。 ※ 画面スタイルを選んでいる時に、リモコンの[決定] を押すと「スキップ設定」され、スキップアイコンが表示されます。この状態では、リモコンによる画面スタイル切り換えでスキップ設定された画面スタイルは選ばれません。
画面スタイル調節リセット	画面スタイル調整の項目すべてを出荷時設定に戻します。

設置する

設定する

付録

困ったときには

ツール



項目	説明
ECO MODE PRO	ECO MODE PRO 機能とは省エネに配慮した下記の機能の総称です。 [詳細へ] を選んだ状態でリモコンの[決定] を押すと、ECO MODE PRO 詳細ページに移行します。 【省電力の設定をする(本製品)】(35ページ)
デモモード	画面右半分が[映像モード] → [超解像レベル] の効果がないもの、画面左半分が効果があるもので表示されます。 実際の効果を確認しながら、超解像レベルを調整することができます。
言語 (LANGUAGE)	設定メニューなどの言語を選びます。
電源ランプ明るさ	電源ランプの明るさを調節します。
PC入力自動切換	表示中の入力に信号がない場合、信号入力を検知し、表示する入力を自動的に切り換える機能です。 ※「DVI-D」「D-SUB」への信号入力に対して機能します。 ※ 変換ケーブルや変換アダプターなどを使って、MHL/HDMI1、HDMI2 端子に PC 信号を入力することができますが、これらの入力に対して入力自動切換機能は機能しません。
DDC/CI	DDC/CI 通信による各種操作を制限する機能です。
操作ロック	誤って調節してしまうことを防ぐための設定メニューの操作禁止機能です。 操作ロック中でも明るさと音量は調節可能です。 以下の手順にしたがって、本体のボタンで操作してください。(リモコンでは操作できません。) <ロックの設定> ① 設定メニューの[ツール]にある[操作ロック]を選ぶ ② 本体の△を押しながら、[入力切換/戻る]を3秒間押し続ける →ロックされます。 <ロックの解除> ① 本体の[メニュー/▽]を押し、「操作ロック中」を表示する ② 本体の△を押しながら、[入力切換/戻る]を3秒間押し続ける →ロックが解除されます。 ※ ロック中でも、リモコン操作はできます。 ※ ロック中は、本体ボタンでは「入力切換」「電源入/切」「明るさの調節」「音量の調節」のみができます。
サイドカラー	映像がない部分(黒帯)の色を調節します。

項目	説明
OSD 水平位置	設定メニューの表示位置を設定します。
OSD 垂直位置	
OSD 表示時間	メニュー : 設定メニューなどが自動的に消えるまでの時間を設定します。 インフォメーション : 入力切換の案内などが自動的に消えるまでの時間を設定します。
シンク設定	デジタル接続する際の制御信号の種類を設定します。 本機能はDVI-D入力およびHDMI入力時に設定できます。 表示している入力に対して設定されます。DVI-D入力、HDMI入力それぞれに設定できます。 1 : コンピューター接続時に推奨します。 映像が正常に表示されない場合、「2」に設定して、コンピュータを再起動してください。 2 : AV機器接続(HDMI入力)時に推奨します。 映像が正常に表示されない場合は、「1」に設定して、AV機器を再起動してください。 ▶入力信号がない場合◀ ① 「NO SIGNAL」の画面で本体の[メニュー/▽]を5秒押し続ける ② 設定値の[1] [2]が表示されるので選ぶ ③ 本体の[入力切換/戻る]を押す ⇒シンク設定は完了です。入力している機器を再起動してください。
初期設定に戻す	[映像モード]、[サイズ位置]、[色温度]、[音声]、[2画面]、[ツール]の各設定を工場出荷時設定に戻します。 ※ ECO MODE PROの省エネ電力量と省エネ率およびCO2削減量はリセットされません。 リセットしたい場合は、ECO MODE PROの「省エネ電力量リセット」を実行してください。 ※ 「言語」「消音」「シンク設定」はリセットされません。

設置する

設定する

付録

困ったときには

ECO MODE PRO 詳細ページ



項目	説明
ECO 設定	お好みの省エネモードを設定します。 切：省エネモード設定を解除します。 小：画面の明るさを低減し、自動的に消費電力を最大約3W[*]削減します。 中：画面の明るさを低減し、自動的に消費電力を最大約9W[*]削減します。 大：画面の明るさを低減し、自動的に消費電力を最大約14W[*]削減します。 ※ 画面全体の平均輝度が75%以上の状態においてECO設定「切」にした状態との比較値です。 (当社独自の測定結果による)
ECO スケール表示	切：ECO スケールは表示しません。 入：画面右下にECO スケールを表示し、現在の電力削減値をリアルタイムに示します。
ECO スケール シースルー	ECO スケールの表示透過率を調節します。
電源自動オフ	切：自動電源オフ機能は無効です。 入：信号入力が無くなってから約30 分後に電源を切ります。
オフタイマー	選んだ時間が経過すると、自動的に電源を切るように設定できます。
省エネ電力量リセット	このページに表示されている[省エネ電力量][省エネ率][CO₂削減量]をリセットします。 ※ [省エネ電力量][省エネ率]は、5年以上経過すると表示色が赤色になり、積算が停止する場合があります。 ※ 工場出荷時に[省エネ電力量][省エネ率][CO₂削減量]がゼロでない場合があります。その場合は、リセットすることをおすすめします。
省エネ電力量	省エネ効果の確認用として、累積省エネ電力量と省エネ率およびCO ₂ 削減量を表示します。
省エネ率	※ CO ₂ 削減量は、1kWh=0.4kg (「各国における発電部門のCO ₂ 排出原単位の推計報告書 -Ver.3(2006.6Revised)-」(JEMA) より) を用いて算出。
CO ₂ 削減量	

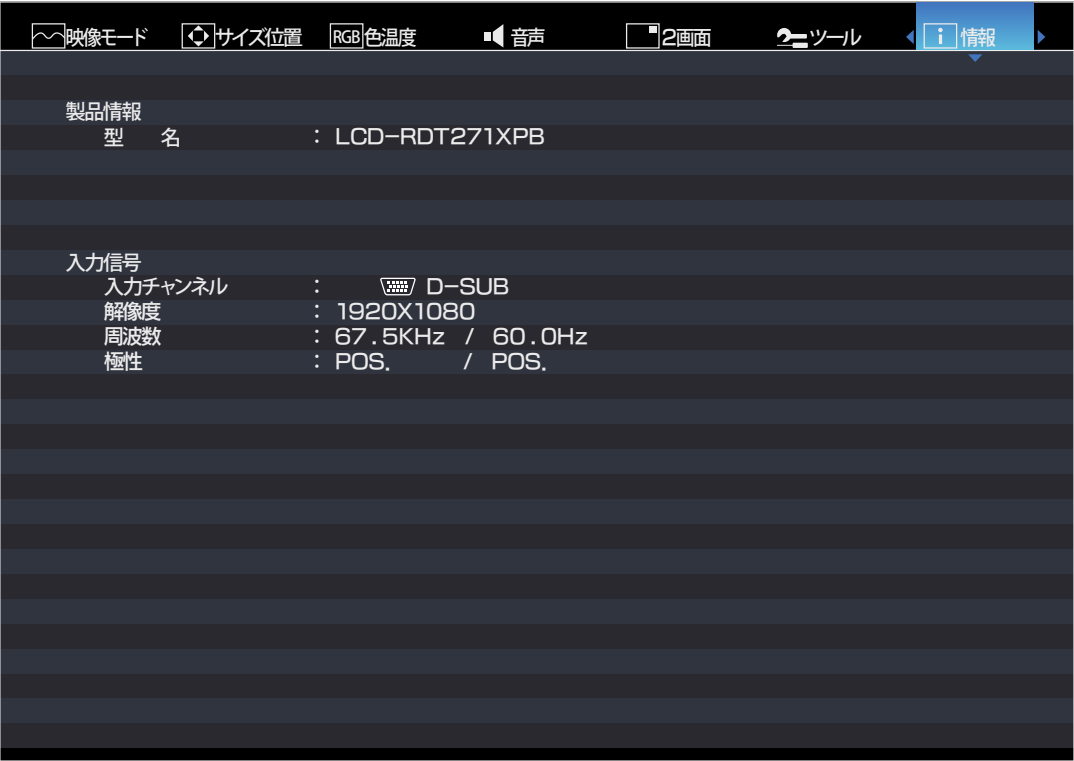
設置する

設定する

付録

困ったときには

情報



項目	説明
製品情報	型名を確認できます。
入力信号	現在表示している入力と信号情報を確認できます。

映像調整用ソフトウェア (アナログ)

「LCD調整ユーティリティ」を使うと【映像を調整する(アナログ)】(29ページ)をより効果的にこなうことができます。

映像調整は、アナログ入力時のみ有効です

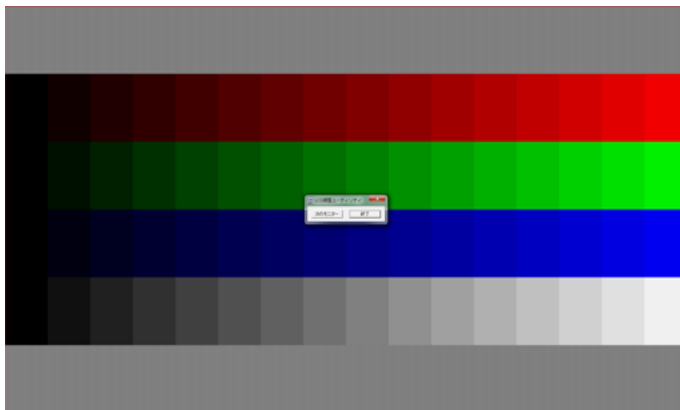
DVI (デジタル) やHDMIで入力した場合は設定の必要はありません。

ダウンロードする

- 1 以下の弊社ホームページを開く
<http://www.iodata.jp/lib/product/I/4157.htm>
- 2 ご利用のOSを選んで、ダウンロードする

実行する

- 1 ダウンロードした「LCDTOOL.EXE」ファイルをダブルクリック
⇒以下の画面が表示されます



- 2 本製品上に画面を表示する
※ マルチディスプレイ環境の場合、[次のモニター] をクリックできます。
本製品上に手順1で表示させた画面を表示してください。

- 3 【手動で調整する】(31ページ)をする

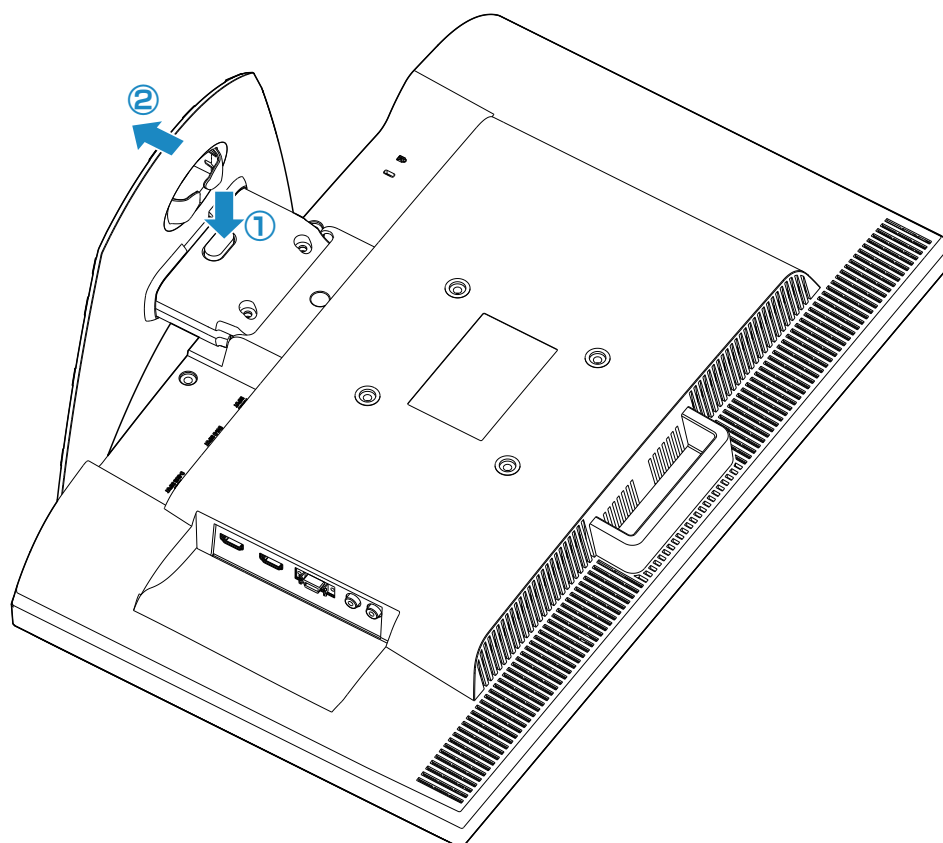
スタンドを取り外す

必要に応じてスタンドを取り外すことができます。

ご注意：取り外しの際は、以下に注意する

- 手や指をはさまない
- 液晶ディスプレイを床などに落としたり、パネルを傷つけたりしない
- ディスプレイ部(表示面)を手で強く押さえない
液晶パネルが故障または破損する恐れがあります。

- 1 机などの平らなところに柔らかい布などを敷き、パネル面を下にして本製品を置く
- 2 ロックボタンを押しながら、スタンドを取り外す



VESA アームを取り付ける

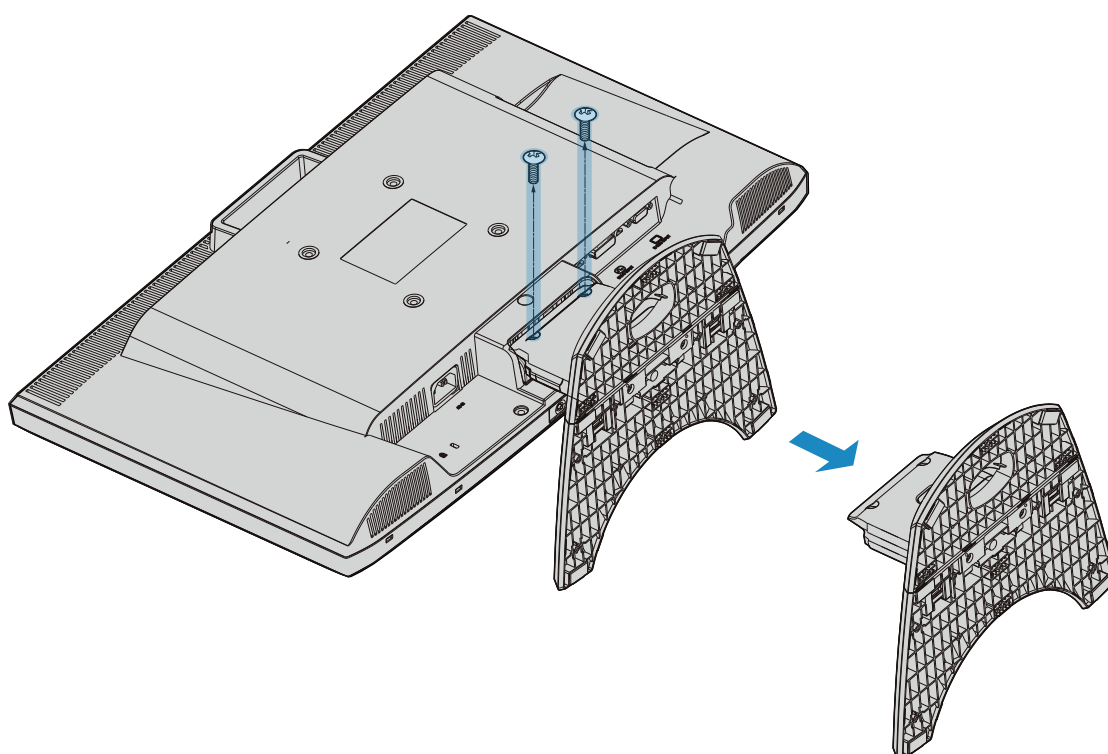
必要に応じて足を取り外し、VESA 規格に準拠した市販のアームなどの固定器具を取り付けることができます。アームやアーム取り付け用ネジは別途ご用意ください。

ご注意：取り付けの際は、以下に注意する

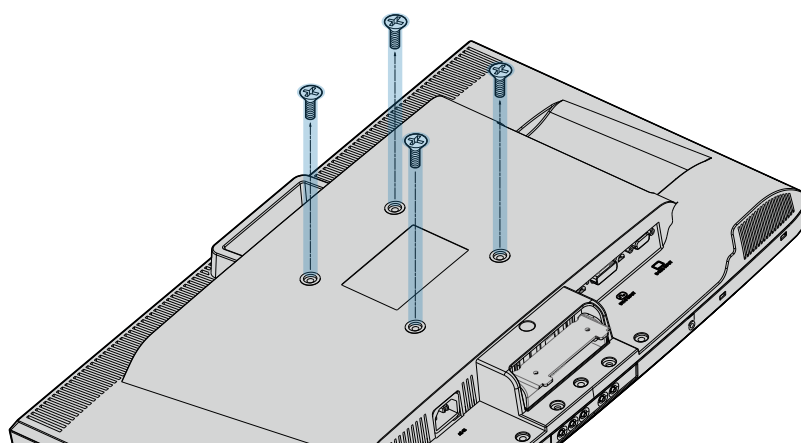
- 手や指をはさまない
- 液晶ディスプレイを床などに落としたり、パネルを傷つけたりしない
- ディスプレイ部(表示面)を手で強く押さえない
液晶パネルが故障または破損する恐れがあります。

1 机などの平らなところに柔らかい布などを敷き、パネル面を下にして本製品を置く

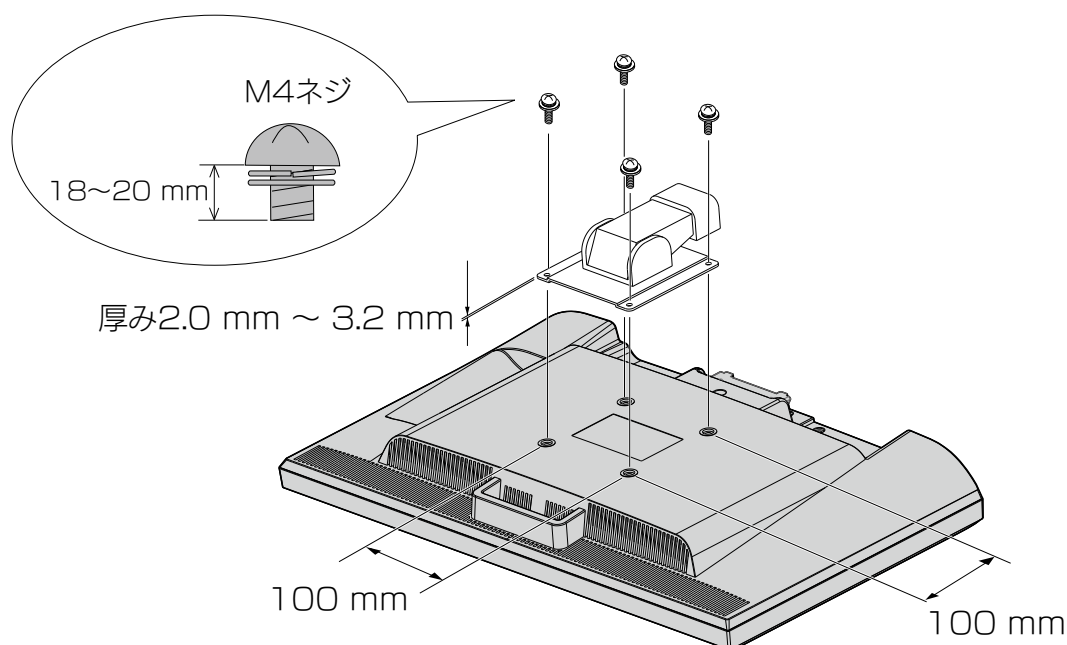
2 スタンドを固定しているネジ2本を取り外し、脚を引き抜く



3 VESA 金具用のネジ穴を留めているネジを取り外す



4 下のようにVESAアームを取り付ける



取付可能なVESAアーム

取付部厚み 2.0mm ~ 3.2mm

VESA 規格準拠 100mm ピッチ

耐荷重量 本製品の質量に耐えられるもの [【ハードウェア仕様】 \(61 ページ\)](#)

ネジゆるみ防止のため、すべてのネジをしっかりと締めてください

ただし、締め付けすぎるとネジが壊れることがあります。

98 ~ 137N・cmが適切な締付トルクです。

落下防止のために

- 液晶ディスプレイを倒したまま固定できないときは、2人以上で取り付け作業をおこなってください。
落下してけがの原因になります。
- 取り付け作業をおこなう前に、アームの取扱説明書を必ず読んでください。
また、地震などでの製品の落下によるけがなどの危害を軽減するために、設置場所などは必ずアームメーカーへ相談ください。
万一、地震などで落下の恐れがある場所での就寝はしないでください。
- アームの取り付けはお客様の責任においておこなってください。
万一事故が発生した場合でも、当社はその責任を負いかねますのでご了承ください。

火災や感電防止のために

- アームを取り付ける際は、必ず下記に示すネジを使ってください。
他のネジを使った場合は、本製品が故障したり火災や感電の原因になるおそれがあります。
ゆるみ止めスプリングワッシャ付き鉄製M4ネジ(長さ18~20mm)
- アームを取り付けてお使いになる場合でも、90°回転や180°回転した状態で使わないでください。
内部に熱がこもり、火災や感電の原因になります。

設置する

設置する

付録

困ったときは

用語解説

液晶ディスプレイに関する一般的な用語を解説します。

用語	解説
DDC 2B 規格 (Display Data Channel)	ディスプレイとコンピューターの間で、設定情報などを双方向でやり取りできる VESA (Video Electronics Standards Association) 規格。 規格に対応したコンピューターとつないだ場合は、本製品の表示画素数、周波数、色特性などの情報をコンピューターが読み出し、適切な画面が自動的に設定されます。
DDC/CI	「Display Data Channel Command Interface」の略。 パソコンから液晶ディスプレイなどをコントロールするための VESA 規格。従来のアナログ・デジタルケーブルに組み込まれ、液晶ディスプレイとパソコンの間のプラグアンドプレイ機能に使用されていた DDC 信号線を使って、特定のコントロールコマンドを送ることにより表示装置を操作することが可能となります。
DPM	「Display Power Management」の略。 VESA が策定した、ディスプレイの節電機構をパソコン本体側から制御するための規格。 省電力機能は、ディスプレイの水平／垂直同期信号を制御することで省電力モードに入ったり復帰したりします。
DV MODE	表示する内容に合わせて、画面表示の設定を切り換える機能。 22,43 ページ
DVI-D	「Digital Visual Interface-Digital」の略。 デジタル入力に対応している DVI 端子。 5 ページ
D 端子	DVD レコーダー／プレーヤーなどにつながる映像端子。 コンポーネント映像信号と映像フォーマットやアスペクト比などの識別信号を、1 本のケーブルでつなぎます。本製品では D1 から D5 までの映像フォーマットに対応しています。 8 ページ
GTG	「Gray to Gray」の略。 表示画面を変化させたときに、画面が切り換わる早さ(追従性)を応答速度といいます。 一般的には、白→黒→白または黒→白→黒の階調変化に要する時間の合計で表しますが、動画表示には中間階調(グレー)での変化に要する時間が短いことが要求されてきました。これを応答速度 (GTG) と表します。数値が小さいほど、高速な応答です。
HDCP	「High-bandwidth Digital Content Protection System」の略。 デジタル映像信号を暗号化する著作権保護システムです。 HDCP に対応した AV 機器をつないで、HDCP で保護された映像コンテンツを視聴できます。
HDMI	「High-Definition Multimedia Interface」の略。 DVD レコーダー／プレーヤーなどにつながる AV 用のデジタルインターフェイス。コンポーネント映像信号と音声信号、制御信号を 1 本のケーブルでつなぎます。 5,8 ページ
MHL	「Mobile High-definition Link」の略。 米 Silicon Image 社が開発したモバイル機器向け的高速映像伝送用のインターフェイス規格です。 1 本のケーブルで映像信号と音声信号、制御信号を伝送が可能で、フル HD 画像の転送ができます。 5 端子を持つマイクロ USB コネクタを流用します。 9 ページ
sRGB	液晶ディスプレイやパソコンでは [RGB]、プリンターなどのカラー印刷では [CMYK] という方式でそれぞれ色を表現していますが、色によっては両者で違って見えることがあります。このような問題に対処するため、両者での色がほぼ同じになるような方式として考案された国際規格です。 [sRGB] 設定は 6500K 相当です。
コンポーネント映像信号 (YPbPr 信号)	映像信号を輝度信号 (Y) と、色系統信号 (赤系 (Pr) / 青系 (Pb)) に分けて送り、受け側の表示機器で合成して映像にします。輝度信号と色系統信号が分けて送られるため、従来のアナログテレビ放送などで発生しやすい、不要な色付きや色にじみなどの画質の悪化を抑えることができます。
視野角度	斜めから見た場合など、規定のコントラスト比が得られる角度のことで、数値が大きいほど広い範囲から画像を見ることができます。
水平周波数／垂直周波数 (リフレッシュレート)	水平周波数: 1 秒間に表示される走査線の数のことです。 水平周波数 31.5kHz の場合、1 秒間に走査線を 31,500 回表示します。 垂直周波数: 1 秒間に画面を何回書き換えているかを表し(リフレッシュレート)ます。 垂直周波数 60Hz の場合、1 秒間に画面を 60 回書き換えています。
チルト角	ディスプレイ画面を上向きや下向きに動かせる角度のことです。

設置する

設定する

付録

困ったときは

用語	解説
オート アジャスト	コンピューターから新しい信号を受信するたびに自動的に画面を適切な状態にする機能です。 (800×600以上の解像度のみ) 新しい信号が入力されると自動調節が実行されます。 入力された信号を本機のマイコンが検出し、左右方向の表示位置、上下方向の表示位置、水平サイズおよび位相の自動調節を開始します。自動調節中は「自動調節実行中」の文字が表示されます。 ※ アナログ入力信号(D-SUB入力) のみ有効です。
ドット	文字や図形を表現する基本単位となる点のこと。ピクセルとも呼ばれます。 パソコンで扱う文字や図形は、このドットの集まりで表現されます。

設置する

設定する

付録

困ったときには

ハードウェア仕様

ハードウェア仕様

液晶パネル	パネルタイプ	TFT27型ワイド LED / 非光沢パネル
	最大表示解像度	1920 × 1080
	画素ピッチ (mm × mm)	0.3114(H) × 0.3114(V)
	表示面積 (mm × mm)	597.888(H) × 336.312(V)
	最大表示色	1677 万色 (10 億 6433 万色中)
	視野角度	上下:178° 左右:178°
	最大輝度	250cd/m ²
	コントラスト	1000:1
	応答速度	14ms [GTG] (オーバードライブ モード 2 時 3.2ms [GTG])
水平走査周波数 (kHz)		31.0 ~ 82.3kHz
垂直走査周波数 (Hz)		56 ~ 76Hz
映像入力端子		アナログ RGB、デジタル HDCP 対応 DVI-D、HDMI × 2、D 端子
音声入出力	音声入力	ステレオミニジャック φ 3.5、RCA 端子 (左右)
	スピーカー	2.5W+2.5W (ステレオ)
	フォン端子	ステレオミニジャック φ 3.5
定格電圧		AC100V 50/60Hz
消費電力	最大時	46W
	通常使用時 (オンモード)	30.4W
	待機時	0.8W
パワーマネージメント		VESA DPM 互換
プラグ&プレイ		VESA DDC2B
チルト角/スイベル角		上:20° 下:5° / -
高さ調整		-
VESA マウントインターフェイス		○ (100mm ピッチ)
盗難防止用ホール		○
外形寸法 (W × D × H)	スタンドあり	643 × 230 × 445 (mm)
	スタンドなし	643 × 69 × 394 (mm)
質量	スタンドあり	6.8kg
	スタンドなし	6.5kg
使用温度条件		0°C ~ 35°C
使用湿度条件		20% ~ 80% (結露なきこと)
各種取得規格・法規制		VCCI Class B、J-Moss グリーンマーク、RoHS 指令準拠、電気用品安全法 (PSE)
保証期間		3 年間

※外観及び仕様は、改善のため予告なく変更することがあります。

表示面上に減点(点灯しない点)や輝点(点灯したままの点)がある場合があります

これは、液晶パネル自体が99.999%以上の有効画素と0.001%未満の画素欠けや輝点をもつことによるものです。

故障あるいは不良ではありません。修理交換の対象とはなりませんので、予めご了承ください。

設置する

設定する

付録

困ったときには

解像度および周波数

●信号タイミング

つなぐパソコンが表示モードに対応しているかご確認ください。

対応パソコン	表示モード	水平周波数 (kHz)	垂直周波数 (Hz)	D-SUB	DVI-D	HDMI	MHL	D 端子	
Apple Mac	Windows 搭載 パソコン	720 × 400	31.5	70.1	○	○	○	-	-
		640 × 480	31.5	60.0	○	○	○	-	-
			37.9	72.8	○	○	○	-	-
		800 × 600	37.5	75.0	○	○	○	-	-
			35.2	56.3	○	○	○	-	-
			37.9	60.3	○	○	○	-	-
			46.9	75.0	○	○	○	-	-
			48.1	72.2	○	○	○	-	-
			48.4	60.0	○	○	○	-	-
		1024 × 768	56.5	70.1	○	○	○	-	-
			60.0	75.0	○	○	○	-	-
		1280 × 720	45.0	59.9	○	○	○	○	○
		1280 × 1024	64.0	60.0	○	○	○	-	-
			80.0	75.0	○	○	○	-	-
		1440 × 900	55.5	59.9	○	○	-	-	-
		1920 × 1080	66.6	59.9	○	○	○	○	○
			67.5	60.0	○	○	○	○	○
			640 × 480	35.0	66.7	○	○	○	-
	832 × 624		49.7	74.5	○	○	○	-	-
	1152 × 870		68.7	75.0	○	○	○	-	-
	1280 × 960		74.8	75.0	○	○	○	-	-
	720 × 480		31.5	59.9	-	-	○	○	○
			15.7	59.9	-	-	○	○	○
	1920 × 1080		33.7	30	-	-	○	○	○

※ パソコンからの信号はすべてノンインタレースである必要があります。

※ Macでアナログ接続ケーブルを使う場合は、別途市販の変換アダプターが必要になる場合があります。

※ コンポジットシンク、シンクオングリーンには対応しておりません。

設置する

設定する

付録

困ったときは

困ったときには

設置する

設定する

付録

困ったときには

パソコンをアナログ (D-SUB) でつないでいるが、「ゆらぎ」や「ちらつき」が見える

[【映像を調整する\(アナログ\)】 \(29ページ\)](#) をご覧になり、「自動調整」や「手動調整」をお試しください。

文字がにじんで見える

ご利用用途に差し支えない限り、液晶ディスプレイの最大表示解像度 ([【ハードウェア仕様】 \(61ページ\)](#)) でご確認ください) に応じた数値で、パソコン側の設定をおこなうことを、強くおすすめいたします。これにより、文字のにじみを軽減することができます。

にじみの原因

パソコン側で設定している解像度が、液晶ディスプレイの最大表示解像度よりも低い場合、文字が拡大して表示されます。拡大されることで、文字がにじんで見えることがあります。特に、双方の解像度の縦横の比率が異なるとき (例：1280x1024 と 1024x768 では、縦横の比率が異なります)、円の図形等を表示したときなど、にじみがひどく、ゆがんで見えることがあります。

スピーカーから音が出ない

- パソコンをHDMIでつないでいる場合
パソコン側で音声の出力先を設定する必要がある場合があります。
[【パソコン側の設定\(HDMIでつないだ時\)】 \(7ページ\)](#) 参照
- パソコンをD-SUBでつないでいる場合
パソコンの音声出力と本製品のオーディオケーブルをつないでください。
- 全般
 - 機器側の音量設定を確認してください。
 - 音声ソースが想定していない機器に設定されているかもしれません。
設定メニューの[音声] → [音声選択] ([48ページ](#)) をご確認ください。
 - ヘッドホンをつないでいると、スピーカーから音が出ません。

スタンドを取り外したい

[【スタンドを取り外す】 \(56ページ\)](#)、[【VESAアームを取り付ける】 \(57ページ\)](#) をご覧ください。

パソコンをHDMIでつないでいるが、画面全体が表示されない

- 設定メニューの[サイズ位置] → [オーバースキャン] ([46ページ](#)) の設定を変更してみてください。
- グラフィックボードのオーバースキャン設定を変更してみてください。

[商標について]

- I-O DATAは、株式会社アイ・オー・データ機器の登録商標です。
- Microsoft、WindowsおよびWindows Vistaは、米国または他国におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。
- Windows 8、7、Vistaは、それぞれWindows® 8、Windows® 7、Windows Vista® operating systemの略称として表記しています。
- Apple、Macintoshは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標または登録商標です。
- HDMI、HDMI ロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing LLC の商標または登録商標です。
- MHL、MHLロゴおよび、Mobile High-definition LinkはMHL, LLCの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- その他、一般に会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。